

特116

502

川島清治郎著

朝鮮論

大日本社發行



始



43/116
502



序 言

予は本年五月偶々朝鮮を一見するの機会を得たが、在來朝鮮に關し紹介せられたる所並に論議せられたる所に對し甚しく異様の感を起し、本論を草するに至つた。或は自ら大に妄斷に陥れるに非ざるやを虞るゝと共に、亦た敢て大方識者の高鑑を仰ぐの念に堪へないのである。幸にこの一小篇日鮮の關係を憂慮せらるゝ相互の士に對し誤て何等かのヒントを與へ得るものとせば、實に望外の光榮である。

大正十三年十月

著者識

大正
13. 11. 5
内交

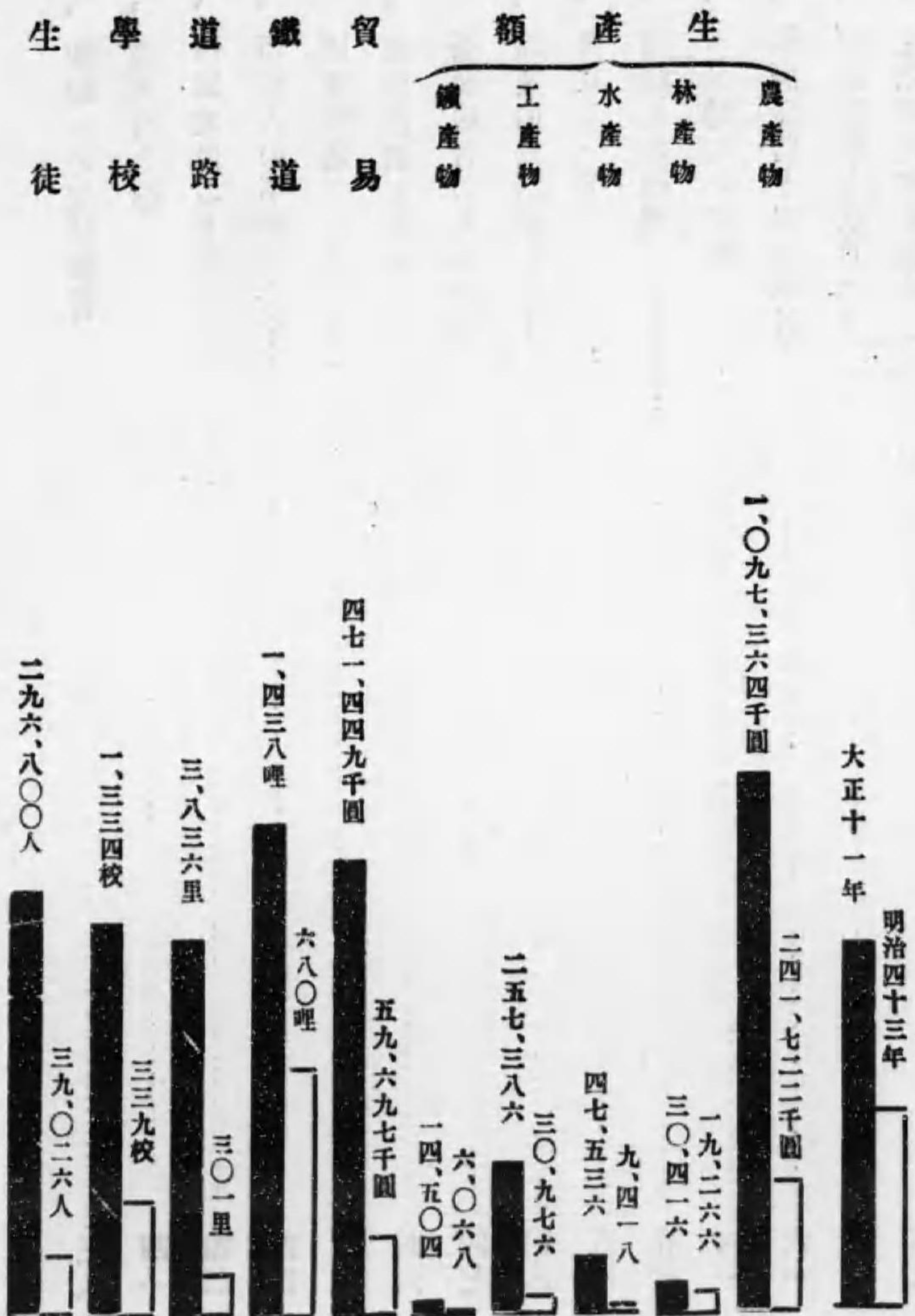
目次

一、入鮮第一の感	一
二、第二の疑	二
三、貧弱なる舊王國	三
四、總督政治の努力	四
五、禿山竟に綠化せず	七
六、更にその赭土を如何にせん	一〇
七、土壤問題の解決	一三
八、國力の限度	一七
九、獨立論の虛妄	二〇
一〇、再び獨立を口にする勿れ	二七
一一、唯だ夫れ産業開發	三四
一二、公營政策を取れ	三五
一三、松毛虫の退治法	三七

一四、朝鮮人の生活改善	三八
一五、温突廢止論	四一
一六、殖民地扱の不可	四二
一七、朝鮮人の不平	四四
一八、國語問題	四五
一九、地方自治を許せ	四六
二〇、齋藤總督の人格政治	四七
二一、職業的政治論を排す	四八
二二、獨立の一字	五一
二三、朝鮮人の祖國	五七
二四、不逞鮮人の取締	六一
二五、鎮海經營と咸鏡鐵道	六一
二六、朝鮮貨幣を廢止せよ	六二
二七、文化研究會を起せ	六三

日本統治の成績

明治四十三年併合當時と大正十一年との産業統計比較（農産物は、大正十年）（林産物は、大正八年）



朝鮮論

川島清治郎著

一、入鮮第一の感

日本から朝鮮へ、對島海峡を聯絡船で渡りて釜山に上陸し、鐵道で十里ばかり進むと、初めての旅客は非常に驚かされる。それは朝鮮民屋の状態が如何にも原始的で、未開的で、陋屋と云つては甚だ朝鮮同胞諸君に濟まないが、眞の陋屋で、土と石とで捏ね上げた小さな藁葺屋根の家が簇々として雨後の茸の如くに重なり合つて居る状態は、實に近代的な連絡船や廣軌鐵道や若くは釜山港に比し一種名状すべからざる對照をなして居るのである。願れば鐵道沿線の山は噂の如く緑くなりつゝある、或は茲五十年か百年も経たば全鮮の山容は一變するであろうが、然しこの民屋の状態は何時まで繼續するのであらう乎。「これは甚い、朝鮮人は何を差措ひても先づ民族生活の向上を圖り經濟的文化的發展を考慮せなければならぬ、何の違ありてか政治を論せんや、……獨立どころの騒ぢやない」。これ予の入鮮第一の感である。

二、第二の疑

それから朝鮮と云ふ國土は極めて單調無味な國土である。山野の形勢何處まで行つても同じことである。小山又小山、低丘又低丘。その間に平野があつて田畑に開かれてある。都會地の外は餘程の富豪の家でもなければ瓦屋根の家を見ることなく、全鮮悉く簇々たる藁葺小舎の民屋及村邑を以て點在せられて居るのである。朝鮮は由來山岳地と云はれて居るけれども、別に高山峻峰のある譯ではなく長白山系中の白頭山九千五百五呎を唯一の最高峰として五六千呎内外のもの其山名僅に五六を屈指するに過ぎないのである。汽車が蜿蜒として全線を駛行するも墜道と云ふものは殆どなく寧ろ旅客をして意外の思を爲さしむる。樹木の少きは勿論であるが、王峻其他若干の禁伐地を除くの外は全鮮悉く木の茂なるものなく、日中恐く一の樹陰だも發見することは困難である。斯くて國土の風景は赤裸々に暴露せられ、唯だ禿げたる山、赭き土、枯れたる川、瘦せたる作物、黒白の鴉、白服の閑人を見るのみである。要するに朝鮮國土の内容は極めて單調粗略であつて、恰も袋の中の物を探ぐるが如くに捕捉せらるゝのである。獨り直接に視るべからざるものは地下の鑛物あるのみであるが、而かもその種類及埋藏量は極めて稀少とのことである。是に於て乎予の第二の疑は起らざるを得ぬ。曰く、「斯かる國土に果して幾千の富が包藏せられて居るのである乎」と。

朝鮮に長白山系の蔚林と、鴨綠江其他數流の大江河と、金剛山の奇勝と、鎮海の大海灣とを有するは寧ろその異觀とする所である。

三、貧弱なる舊王國

朝鮮の國土を一言にして評すれば貧弱と云ふより外はないのである。朝鮮を貧弱なりと云へば朝鮮人は勿論朝鮮關係の日本人も一齊に不愉快を感ぜらるゝであらうが、予はこの感情を偽ることが出来ぬ。昔は新羅其他の王國が榮へて朝鮮は繁盛豊裕な國土であつたやうに思はれ、現に慶州其他では珠玉を鑲めたる赫耀たる金の王冠が幾つも發掘され、又その古蹟たる王峻、城趾、墳墓、寺刹、堂塔、佛像、巨鐘等は皆當時の藝術の粹を示し、殊に佛國寺背後吐含山の石窟庵中に安置せる釋迦如來の石佛の如きは正に東洋第一の美術と稱せらるゝ程であるが、恐らくは是れ王族文化の反影であつて、必ずしも民族固有の文化を顯彰せるものではないのである。又その王族文化と云ふものも唐代の文化を其儘移入したるものであつて現にその藝術上の作品の如きも直接唐の名匠の手に成れるもの少からざる状態にて、必ずしも朝鮮固有の文化藝術を發揮せるものではないのである。朝鮮民族の生活及國土の風景より察すれば朝鮮の貧弱は蓋し昔ながらの現象であつて、或は民族國家としては何等の根底實力なく僅に全國土の富力を集めて王の金冠及城壁を飾りたるまでに過ぎないやうに思はるゝ。その證

據としては王族文化に關しては諸種の遺蹟遺物等の殘留發掘せらるゝも、民族其物の文化に關する遺蹟遺物等の類は殆どなく、人民は藁葺屋根の陋屋に住み、簡單なる粗服を纏ひ、貧瘦なる土壤を耕して居たやうに思はれる。或は是れ李朝時代の惡政の結果と説かれ、勿論それが重大の原因を成して居るには相違なからうが、然し斯かる一時的の原因のみではなくしてそこに古來何等かの一貫せる原因があるのではないかと思はるゝ。想ふに國土の貧瘦と云ふのが本來の重大原因であつて、その爲め人民が低級菲薄なる生活を營み、辛うじて小規模の王國を支へ得たに過ぎないのであるからう乎。要するに朝鮮は民族的の基礎を有する確固たる一國ではなくして一の貧弱なる舊王國に過ぎなかつたのである。

四、總督政治の努力

或は曰く、朝鮮を貧弱なりと云ふは盲斷ではなからうか又設令現在に於ては貧弱なるもこは多年の惡政の結果であつて政治を革むれば恢復するのではなからうかと。勿論然う見るが一應適當である而して又然うありたいのである。乃で日本の總督政治は銳意熱心文化の向上産業の發達富力の恢復に努力し、殆ど王朝時代の面目を一變し隔世の感あらしめて居る。今その成績の一般を擧ぐれば、明治四十三年の併合當時を標準として大正十一年には鐵道六九〇哩より一、四三八哩となり、道路は三〇一

里より三、八三六里となり全鮮到處自動車を通じ得ることとなり、各種の生産物總額は二七七、二七七〇〇〇圓より一、四六九、六一一、〇〇〇圓となり、又輸移出入貿易總額五九、六九七、〇〇〇圓より四七一、四四九、〇〇〇圓となり、何れも數倍乃至十數倍の發達を成して居る。就中農業の發達は非常のものであつて、併合當時耕地面積二、四六四、九〇四町歩内水田八四七、六六八町歩であつたものが四、三二二、四九〇町歩内水田一、五四三、六六四町歩となり、米の産額一〇、四〇五、六一三石であつたものが一四、三二四、三五二石(大正十年)となり、輸移出米も三、五〇〇、〇〇〇石の多きに達して居る。加之總督府の産米増殖計畫に依れば大正九年度より第一期十五個年計畫を以て灌溉改善地目變換開墾干拓等に依り水田四二七、五〇〇町歩を増加し産米約九、〇〇〇、〇〇〇石を増し、更に第二期計畫を加へ通じて三十個年を以て水田八〇〇、〇〇〇町歩及之に伴ふ産米額を増加することになつて居る、又更に山林の經營に就ては現在林野面積一五、八八三、〇〇〇町歩の内成林地五、四八二、〇〇〇稚樹地七、二八五、〇〇〇無立木地三、一一六、〇〇〇の割であるが、併合當時に比し、成林地約三六〇、〇〇〇町歩稚樹地五七〇、〇〇〇町歩を増し朝鮮の山をして漸く緑化せしめんとして居る。而してその勞費は莫大無限であつて造林に要したる生苗數だけでも大正八年まで官民苗圃を通じて無慮七二五、四三三、〇〇〇本と云ふ巨數を算することになつて居る。尙教育文化の点に於ても、官公立學校三三九此生徒數三九、〇二六より一、三三四此生徒數二九六、八〇〇とな

り大に朝鮮民族の智識を開發して居る次第である。斯の如くにして總督政治の努力は今後朝鮮をして如何なる程度まで發達豊裕ならしむるや知れない程である。眞に驚嘆すべき成績である。

然るに茲に一考すべきことは朝鮮の貧弱は果して之れだけにて救はるべきであるか何うかと云ふ点である。朝鮮貧弱の原因が單に稅政の結果に在りとせば政治の改良即ち總督政治の努力に依り朝鮮の貧弱は根本的に救はれるであらう。然し他に有力なる原因があつて別に朝鮮の貧弱を馴致して居るものとすれば、その原因の去らざる限朝鮮の貧弱は依然として繼續し他の一般諸國の如く無限の發達を爲すことが出来ないのである。その原因は果して除去することが出来るであらう乎何う乎。

予は是に於て一大苦言を總督府の諸官及朝鮮人諸君に向つて呈せざるを得ない。曰く、「朝鮮の貧弱は天然の原因に依りて馴致せらるゝこと多く永久に亘りて之を除去することを得ない從て朝鮮の發達は自ら一定の限度に至りて停止する」と。天然の原因とは何ぞ。他なし、西比利の荒風と雨量の少きことと土壤の劣悪なることとである。蓋し是れ朝鮮の禿山と赭土とが遺憾なく之を説明して居る所である。

總督府の諸官も朝鮮人諸君も一たびこの禿山と赭土とに對しては決してその驕慢心と増長心とを起すことが出来ないのである。朝鮮は恐く日本の如くにはならぬのである。唯だ日本の力に依り如何なる程度まで良くなるかと云ふことを考ふるまでである。日本と争ひ日本と喧嘩をしては決して今日以上にも良くならぬのである。

五、禿山竟に綠化せず

朝鮮の禿山は人民濫伐の結果とせられて居る。勿論それは重大なる原因に相違ない。然し濫伐ばかりで彼れだけの禿山になるとは必ずしも信せられない。モウ一層重大なる原因は、偉大なる天然の力があつて働いて居るものと考へざるを得ない。即ち一年の約半を通じて西比利西北方の荒風にその山嶺を暴さるゝことゝ一年を通じて雨雪の量最も少く僅に六七八の三個月を除き他は殆ど乾燥期に屬することゝは以て朝鮮の全山をして禿山赭峰たらしむる所以である。この二つの事情は人力を以て如何ともすべからざる所であつて、總督府の諸官が如何に奮勵努力しても朝鮮の山は決して緑くはならないのである。専門家の一人は曰く、「朝鮮の山の風化は非常のものであつて内地の一寸に對して無慮八寸に及ぶ假に山嶺の土砂を悉く排掃し岩角岩床のみを露出せしめて置くときは日ならずして風化し岩質自ら破碎してポロ／＼の土砂となつて殘留して居る」と。又曰く、「雨量少きが故に樹木繁茂せず荒涼たる山丘の造林には松樹を以て最も適當とするが、松樹には松毛虫の害を伴ひ如何ともすることが出来ない、勢ひ濶葉樹との混植を行ひ虫類相互の相殺作用に委するの外はあるまいが、その効果し如何あるべきや、朝鮮殖林の前途は實に遠遠にして茫漠たるものである」と。尙聞く所に依ると朝

鮮には一本たりとも真直の松樹はなく恐くこれは種子の遺傳であらうが内地の種子を以てするも風土に適しないと云ふことである。如何に朝鮮造林事業の困難にして僻ねく居るかの消息が明である。或は之を評する者は曰く、それは種子の遺傳ではなく朝鮮人が端から下枝をもぎ取るから平均を失し自ら枝が曲るのであらう」と。これは禿山人爲説を代表する一派の解説とも見らるべきものであるが、現に朝鮮には一本たりとも真直の松樹がないことが事實であり且つその悉くが必ずしもその下枝をもぎ取られて居るものに非ずとせば、この解説は當らないものと云ひ得べく、又斯かる事情があつたとするも、それは既に種子の遺傳を作り得たに充分であつたと云はなければならぬ。頗る趣味の多い問題ではあるが、恐くば斯かる複雑したる原因に出づることなく、單に西比利の荒風と雨量の少きとに惱まされたる結果永久に斯かる種子の遺傳を作り上ぐるに至つたものと解釋するが至當であらうと思ふ。

總督府は併合後十年の間に三十餘萬町歩の成林地を増加し苗樹七億餘本を養ふたが、この割を以てすれば將來成林地五百萬町歩を増加するには百五十年の日時と苗樹百億餘本とを要し、更に成林地五百萬町歩を増加し全鮮の山林を悉く造林緑化するには三百年の日時と苗樹二百億餘本とを要することとなるのであらう。その勞費と忍耐とは殆ど想像の外であるが、斯かる犠牲を供して朝鮮の山が果して悉く緑化するか何ふかと云ふに、それが六ヶ敷いと云へば總督府たる者は一考せざるを得ぬのであ

る。總督府は現在に於て一意に朝鮮の山を緑化せんと志し無限の仁心を以て之に従事し國有林の經營、民有林の奨励監督、水源涵養其他保安林の造林にそれ〴〵銳意熱心して居らるゝが、恐くはその努力も大半徒勞に歸するであらう。乃で總督府は別に聰明なる方法を發見せざるべからずである。即ち造林の目的を斯かる漫然たる區別に依らしめずして宜しく之を水源涵養國土保安に集中し、國有林たると民有林たるとに拘らず主として治水の目的を以て治山造林を行ふことを第一の急務とせなければならぬのである。而してこの目的に副ふか爲には専ら水源地方の山岳、谿谷、河川の流域、其他に造林を行ふこととなるのである。その上にて尙若干の餘力あらば茲に始めて第二の目的に移り一般造林の事業に従ふべきである。而かもこれ亦た漫然たる造林を行ふことなく、可成西北方よりの西比利の荒風を受けざる山岳、山腹を始め水分に富める山腹、谷地、並に特殊の必要及意味を有する神社、佛閣、勝地、公園、村落、道路等を選定し、更にその力を集中して比較的容易に大体の目的を達成するやうにせなければならぬのである。唯だ山さへ緑くすればそれで宜しいと云ふが如き考を以て漫然たる造林に従事すれば恐く勞多く自ら失望するの時機があるだらうと思ふ。尙道路の並木は現に諸處に於て實見し只管その整美に感嘆した所であるが、朝鮮の夏期は暑熱酷烈なるが爲めに單に道路の兩側に稀薄なる植樹を行ふことなく寧ろ或間隔を置いて一定個所に之を集中し、茲に一の鬱蒼たる茂を造り路上のオーシスとして行路者にその苦熱を避けしむる様にした方が寧ろ有意義だらうと思ふ

同時に田畠の間にも諸處に樹林を設け同じく耕勞者をしてその勞苦を醫せしむるやうにしたら宜からうと思ふ。由來朝鮮の村落には殆ど樹木と云ふものを見ないのであるが、これは恐らく温突の爲め焚き盡すものであらうけれども嚴に之を戒訓し、村落には必ず樹木を植へしめ相當の樹陰を生せしむるやうにしなければならぬ。寒暑共に恐くは大に之を緩和することが出来るであらう。

朝鮮の山の結局緑くならないことは、我が中國の山の概して秃山赭山たるに見て略ぼ想像し得べき所である。中國の山も随分濫伐をしたさうであるが、朝鮮ほどでなく又近年はさう云うこともないのであるが、竟に比較的秃山赭山たるを免れぬのである。これ亦た朝鮮の地勢を承けて西比利の荒風を受くるからである。今少し東に外れて日本海の海上を距つるやうになれば西比利の朔風も餘程緩和せらるゝのである。現に朝鮮に在りても東海岸方面の地方はその連亘せる背梁山脈に遮られ風勢自ら弱く金剛山其他の如く樹木の繁生するのを見るのである。

朝鮮の山が如何に緑くなり得るものとするも、竟に我が中國の山より緑くならないことは、日鮮人の悉くが豫め考へ置くべき所である。

六、更にその赭土を如何せん

朝鮮の耕土は亦た悉く赭土である。赭土の黒土に比し耕土として劣等なることは争はれぬ所であつ

て事實の問題である。朝鮮の農作物が一見して發育不良なるは主としてその赭土の爲であるが、極言すれば草だも密生しない状態である。専門家は曰く、肥料さへ遣やれば同じことだと。然し赭土と黒土とは俱に肥料を遣るも同じことに非ざると共に俱に肥料を遣らざれば益々同じことに非ざるのである。黒土と赭土とは耕土として元來截然たる優劣の差があるのである。

現在に於て朝鮮の米の産額は一反歩當約一石(未滿)であつて内地の約二石(未滿)に比し恰もその半に當つて居る。米以外の農作物たる大麥、小麥、裸麥、甘薯、馬鈴薯、煙草、桑等も亦た一反歩當の收穫略ぼ内地の半に相當して居る。要するに朝鮮耕土の生産力は内地の半に相當するに過ぎないやうに見へる。これ何の故に然るのである乎。一般の説に依ればこれ亦た政治の荒廢と人民遊惰の結果なりとせられて居るのである。勿論それは重大の原因であつて現に總督政治の開始以來農産物の收穫が激増して居るのは何よりの證據であるが、而かも今後果して幾千の程度にその成果が發展すべきものなりや疑問である。米の産額は併合當時八斗前後であつたが今は一石未滿に達して居る。この二斗の差は勿論農事改良の結果であつて、米の優良品種の採用は水田百五十萬町歩の内九十萬町歩の多きに及び、又實際一石以上の收穫ある慶尙全羅方面の水田には日本人の直接經營に屬するもの多く施肥も比較的充分に行はれて居る結果なりとせば、政治の改良人民發奮の効果も既に相當顯はれて居るものと認めねばならぬ。これが今後更に二斗を増し三斗を増すに至らば恐くは政治の荒廢人民遊惰の原因は

一應除去せらるゝものと云はなければならぬ。總督府の産米増殖第一期計画には結局二百萬町歩の水田を得て二千四百万石の米を得ることゝなつて居るから一反歩當一石二斗の平均收穫を得ることになつて居るのである。こゝらか恐くは朝鮮相當の米の産額であらうと思はれる。然し尙一層の餘力を認め假に一石五斗の生産能力を將來に有するものと爲し得るかもしれない。これは餘程の寛裕であるが朝鮮農事に關する某權威はこの一石五斗當の産額を以て樂觀に過ぎたるものと評せられて居る。總督府の産米増殖第二期計劃の完了時期即ち今より三十年の後の平均産額は幾千の率に豫想せられて居るか不明であるが、恐くこの一石五斗當には及ばぬであらう。その間に尙日本の内地の平均生産額率も逐次増加するのであるが、然し假に今は之を論ぜざることにする。

要するに朝鮮の米の産額一石二斗乃至一石五斗と日本内地の二石との差五斗乃至八斗は果して如何なる原因に依りて生じ來るのである乎。これは重大の研究問題である。殊に農業を産業の大宗とする朝鮮に在りては唯一根本の重大問題である。總督府の専門權威は果して如何なる研究解釋を有つて居らるか知らぬが、予の考ふる所に依れば、これは全く朝鮮土壤の本來赭土なるが爲に生ずる所であつて、殆ど永久的に補修すべからざる天然上の欠陥である。朝鮮の貧弱は主としてその赭土から來て居るのである。

七、土壤問題の解決

然らば赭土が何故に耕土として劣等であるかと云ふに、それは積極的には酸化鐵を多く含む消極的には腐植質(Humus)を含むこと少きを意味して居るからである。酸化鐵を多く含むと云ふことは作物に有害なる物質を多く含むと云ふことで好しからざる現象である。元來酸化鐵は滿俺と同じくその若干部分に於て一般肥料として作物に吸収せらるゝことになつて居るが、その分量の多きに過ぎるときは有害となつて來るやうである。西洋の某學者は土壤の有害なる成分に關して論述しつゝ實驗の結果鐵分及滿俺分の多き土壤には作物の發育不良なるは事實なるも未だ學術的に充分之を證明するは困難であると云つて居る。酸化鐵を多く含む赭土の耕土として劣等なるは否むべからざるが如くである。これと同時にヒューマスを含まざることとは土壤としての一大缺點であつて到底普通の黒土と同日に談すべからざるは明白である。土壤は元來その始岩が空氣及水に依りて分解又は溶解せられ自然に沈澱蓄積したものであるが、その上に生じたる植物が逐年落葉腐廢して腐植質を造り既成の礦物質土壤と混和して茲に所謂黒土(Black soil)なるものを現出し來るのである。蓋しその始純然たる礦物質土壤の上に最初の植物が發生成育したが如く如何なる土壤の上にも若干の作物の出來るのは勿論である。朝鮮の赭土にも自ら相當の農産物ある所以である。これは礦物質無機質の肥料が含蓄されてあつて他

の空氣、水、日光、溫度等の條件が一應具備する以上は同じく作物の爲に吸収せられ之にその營養分を供給するからである。然れども礦物質無機質肥料だけでは作物は決して完全なる發育を遂ぐる事が出来ぬ。礦物質肥料だけなら自然の土壤は本來無限に之を蓄積して居る。蓋し肥料の主要分は窒素と磷酸と加里とであるが、歐洲學界の調査に依れば一英町歩の表面土壤一呎の分量四、三五六、〇〇〇听の内窒素は一%で四、三五六听、磷酸は二%で八、七一二听、加里は四%で一七、四二四听を含んで居る。従つてこれだけの肥料分があれば窒素では百年、磷酸では四百年、加里では五百年以上の營養分を作物に供給して餘ありと云ふことである。而かも斯かる場合に尙僅に二十听の硝酸曹達を肥料として土壤に加ふればその作物を豊穰ならしむることは莫大である。これ何の故に然るのである乎。學者の之を説明する者は曰く、それは自然に存在する礦物肥料は其儘直に作物に吸収せらるゝが如き状態に於て存在せぬが人爲に依りて加へらるゝ肥料は直に作物に依りて吸収せらるゝ如き状態に於て投下せらるゝからである。是に於て天然の土壤其儘では作物に貢献すること比較的少く何うしても新に人爲の作用を以て肥料を加へねばならぬことを知るのである。この場合に矢張礦物質肥料無機質肥料を加ふれば勿論若干の効果あり且つ特殊の作物には特殊の効果ある次第であるが、これだけでは決して充分ではないのである。何うしても別に植物質有機質の肥料を加へねばならぬ。植物質の肥料はその營養分の含蓄量比較的少きも窒素、磷酸、加里の三要素を平均して含蓄すると同時に、殊にそ

の特徴として土壤の理化學的作用を促し、或は日光空氣の疏通を良くし、或は微菌の發生繁殖を促し肥料の分解作用を助け、或は更に礦物質肥料の成分を溶解して容易に作物に之を吸収せしむる等偉大無限の働を爲すものである。土壤に植物質の肥料を欠くは耕土としての大半の作用と營養分を欠くものであつて重大の事件である。朝鮮の土壤は即ちこの重大の作用と營養分とを欠如せる天然其儘の土壤であつて單に礦物質の殘滓として存留するものゝみである。

朝鮮の土壤は永久に西比利の荒風に暴され又雨量少きが故に植物を發生せしむること比較的少く且つ人民が端から之をもぎ取り去るが故に植物が落葉腐爛して腐植質を醸生する機會比較的に少いのである。朝鮮の土壤は普通の地理學書や總督府の報告書中には土地肥沃にして農業に適すと紹介せられて居るが、それは單に眞土 (Loam) として稱せらるゝに過ぎざるものであつて砂と粘土とが適當に混和せられて居ると云ふの意に外ならぬのである。砂や粘土だけでは耕作上水排きの具合や根張りの具合が面白くなく、特別の作物を除くの外一般の作物に對する耕土としては土壤は何うしてもこの砂と粘土とが適當に混和せらるゝを要するのである。朝鮮の土壤はこの混和が普通に行はれて居ると云ふまでゝあつて、直に肥沃なり豊沃なりと云ふ譯ではないのである。單にロームと稱するまでのものであつて所謂眞の沃土肥土穰土 (Fertile soil) と稱する譯のものではないのである。眞の沃土肥土穰土たるには何うしてもヒューマスたらざるを得ぬのである。

朝鮮の農業指導者は只管に肥料を施せと云ふ。肥料さへ施せば朝鮮の土壤は普通一般の土壤と格別異ならぬやうに云ふ。而して場處に依つては米の二石五斗も三石も取れる處があると云ふ。米の二石五斗や三石も取れる處のあるのは不思議ではなく、内地では四石も五石も六石も取れる處があるのである。斯くて天然肥料よりは人造肥料の方を有効なりとするのであるが、これは人造肥料が自然の欠陥を補ふに最も直接にして最も簡便だからである。然しこの人造肥料を推奨することは少しく不親切の方であつて朝鮮土壤を根本的に改良するには永年掛つても堆肥、綠肥、人糞尿肥等植物質有機質の肥料を施しその上に若干金肥を加ふるやうにしなければならぬ。金肥のみを施すは餘りに不自然にして餘りに一時的である。故松方公は曰く、「人造肥料は植物の肥料であつて、天然肥料は土壤の肥料である」と。蓋し頗る名言であつて専門家の服膺すべき言となつて居る。朝鮮土壤にはこの名言が最も名藥である。

朝鮮の赭土は一はその旱天より來て居る。旱天續きて雨量が少いから自然に赭く見へる關係もあるこの點に於ては若干樂觀することが出来る。然し旱天續きの爲め土壤が常に風化し酸化し分解し荒廢を續けるのは同時に悲觀すべき事柄である。又天然肥料を永續的に施せば自然にその赭土を黒化することも出来ること云ひ得る。然しこの點に於ても亦た朝鮮の土壤は砂質のロームであるから肥料が逃げて比較的蓄積の効果が少いと云ひ得る。専門家は五六年乃至十年も繼續して植物質肥料を施せば或は

土壤をして一變せしむることが出来るやうに云ふが、恐くは樂觀に過ぎたる言であらう。蓋しヒューマスは地球上の一の永遠的の成果である。

朝鮮農業の問題は根底に於て先づ土壤の問題を決するに在る。土壤の問題を決したる後茲に始めて農業の大策を確立することが出来るのである。而して何れにするも米を作ることが基本となるには相違なからうが、米の収穫の限度を知ることが最も痛切なると同時に、その赭土の土壤に最も適合したる作物如何を考慮するは最も必要なりと信ずる。幸にその真相を明にして適切なる農業政策を實施するに至らば、朝鮮の國力も一層豊富ならしむることが出来る。

八、國力の限度

朝鮮の秃山が必ずしも緑くならず又耕土としての土壤力に限度があるとすれば、朝鮮の國力は略ぼ想像し得るものと云はざるを得ない。従つて何等かの方法に依り之を補ふの途を講ずるは最も必要である。先づ農業としては前項に一言せる如く比較的その土壤に適し生産量の比較的多いものか又は品質價格の比較的優良なるものか若しくは有力なる工業材料となるべき作物を選んで之を耕作することが必要である。その作物の何たるかは總督府の農業指導者たるべき機關が宜しく土壤の研究を爲したる上之を指示すべきものであるが、工業材料たるべきものは桑、棉、麻、煙草、甜菜、葡萄、人蔘等

先づその主なるものである。それから農家の副業たるべきものを奨励するの必要であるが、農業の副業たるものは養蠶、蓄産、機業、製紙業等を主として、綿、吠、苳、草鞋、莞草蓆、柳行李、竹細工、乾果、藥草採取等の手工業家内工業である。養蠶は朝鮮の風土氣候好く之に適し日本同様將來有望の副業たり得ると同時に、蓄産業は牛を主として古來大に發達して居る所である。尙機業及製紙業は古來より行はれ、又、繩、吠、苳等の如きも米産國として近來侮り難き農家の大副業となつて居るのである。

農業に次ぎて水産業は朝鮮第二の産業である。海岸線も附屬島嶼共日本の七、〇四〇里に對し四、三〇〇里にて約六割に達して居るが、地勢氣候潮流等の關係で水産物頗る豊富である。而して日本海方面及多島海方面を主として黄海方面は寧ろ劣つて居るのであるが、現在に於ては未だ漁獲法が幼稚であつて我内地の二割をも收穫し得ない状態である。而かもその半は我内地の漁業者の收穫する所であつて朝鮮人の能力は頗る擧らず、大正十一年の調に於て内地人の漁船一五、〇三二隻出漁人員七八、一四三人此收穫二三、五五〇、九〇一圓に對し朝鮮人の漁船四五、三七一隻出漁人員三二四、六八五人此收穫二三、九八五、一八〇圓と云ふ状態であつて、船に於ては約三倍人員に於ては約四倍の割を以てするに非ざれば、我内地の漁業者と匹敵しべからざる現状である然し朝鮮人の能力も逐次に發達し結局は日本内地に對する約六割の生産を擧げ得るに至るものと想定することが出来る。林産業は既に全鮮造林の必要を感じて居る程であるから林産額のある筈はないが、然し目下に於て

も鴨綠江流域の製材を主として薪炭其他若干の産額を有して居る。これは當分數十年間格別増加するの見込はないものと認めて置かねばならぬ。

獨り他に最も期待すべきは鑛業及工業であるが。この兩方面に於ても朝鮮の惠福は極めて稀薄なりと云はざるを得ない。即ち總督府に於ける明治四十四年より大正六年に亘る鑛床調査に依れば、結局朝鮮には一方に於て少量の金と鐵と黒鉛とを有し一方に於て多量の無煙炭と褐炭とを有するの外殆ど他に格別擧ぐるに足るの鑛物なきを明にしたのである。又工業材料としても現在に於ては僅に若干の綿花、大麻、苧麻、繭、褚皮、窒業土石、葡萄、莞草、煙草、人蔘、牛皮、燐寸軸木等を有するに過ぎないのであるが、最も重大なる欠陥としては工業動力としての石炭及水力を欠くことである。朝鮮には多量の無煙炭を存し平壤地方の埋藏量無慮五億噸と稱せられ褐炭の量亦た之に相當するものとするも、未だ何れも工業用としての燃料動力となることを得ず工業用動力たるべき有煙炭は凡て之を九州及滿州に仰がざるべからざると同時に、水力に在りては山林荒廢水源涸渇雨量稀少の爲め河川の流出量少く又地勢上落差少きが故にこれ亦たその量少く、明治四十四年より大正三年に亘る總督府の調査に依れば、僅かに二百馬力以上の水力地點八十個所此馬力七万六千餘で、この内電氣事業經營の爲め使用せらるべきものは更に僅に其地點三十九個所此馬力三万三千餘に過ぎないのである。日本の現在調査濟水力地點千六十餘個所此馬力三百五十餘方に比し殆ど一涓滴にも當らないのである。既に

工業材料に乏しく更に工業動力に於て欠くる所ある以上朝鮮が工業に於て有望ならざるは多言を要せずして明なる所である。加之、商業に至りても農業其他の産業及工業に限度ある以上、自ら之が反影たるに過ぎざるものとして相當の限度あるはこれ亦た論を俟たざる所である。

要之、以上は朝鮮國力の全部であり限度である。これを外にして朝鮮には何等の富資も實力も將又將來の期待もないのである。朝鮮の貧弱今更の如く驚かるゝのであつて到底日本内地と同日に談する限ではないのである。日本が如何に貧弱なりと雖も蓋し斯の如く貧弱ではないのである。世上には日本と朝鮮との差は僅にその國土の面積の差位に思つて朝鮮にも日本の二万五千方里に對する一万四千三百方里即ち約五割七分に相當する國力富力があるものと思つて居るやうであるが。これが非常な間違であつて日本人をも朝鮮人をも誤らしむる重大の原因となるのである。朝鮮國土の貧弱と云ふことは内鮮兩民族の俱に牢として記憶し置かねばならぬ所である。

九、獨立論者の虚妄

朝鮮人の一部及日本人の一部は常に朝鮮獨立論を唱へて居る。而して在鮮の米國宣教師も亦た之を教唆煽動して居る。然れども朝鮮民屋の状態を一たび省みるときは朝鮮の獨立も何もないではない乎朝鮮人諸君は須く先づ何を差措ひても彼の民屋の状態を改むべきではない乎。日本人の學者論客など

も彼の朝鮮人の民屋の状態を一見しながら之に獨立論を教へ込んだとて何になる乎。その癖これ等の學者論客は日本内地に於ては主として平和主義世界主義を唱へ國家主義を呪ひ愛國主義を嗤笑し動もすれば國境撤廢の主義に就かんとしつゝあるに拘らず、獨り朝鮮に關してはその獨立を主張し絶叫するは何の心である乎。恐らくは何か爲にする積であらうが、醜態矛盾を極むるものと云はざるを得ない。米國の宣教師なども敢て博愛慈善の假面を被りつゝ、數十年來未だ曾て朝鮮民族の生活状態に就て思を致さず徒に彼の簇々たる民屋の間に在りて赤煉瓦の教會堂を建て陰險なる口調を以て無心の人民を齷齪し日本の善政を呪咀し朝鮮の不安を醸さんとするは何の心である乎。大に神の心を裏切るものでない乎。想ふに朝鮮獨立論ほど朝鮮を傷ひ朝鮮民族の幸福を奪ふものはないのである。

朝鮮獨立論者は常に銃器を弄び爆彈を投じ暗殺を企て暴舉を計畫し頻に獨立運動を繼續して居るから、出來得れば今日からでも直に獨立する積であらう。然しこれが(一)日本を敵とし(二)日本を離れて行はれ得るものと信ずるは不可能であらう。日本を敵とし今直に獨立の行れざるは勿論であるが、設令日本の好意に依り獨立の認めらるゝものとするも、朝鮮は決して自ら獨立に堪へぬであらう。朝鮮の獨立論者は須く先づ左の一表を瞥見して置くの要がある。

内地

朝鮮 (比率)

面積 (方里)

二五、〇〇〇

一四、三〇〇 (〇・五七)

人口(人)	五六、〇〇〇、〇〇〇	一七、〇〇〇、〇〇〇	(〇・三〇)
農産額(圓)	四、九七六、〇〇〇、〇〇〇	一、三八九、〇〇〇、〇〇〇	(〇・二八)
水産額(圓)	二四六、〇〇〇、〇〇〇	四五、〇〇〇、〇〇〇	(〇・一八)
林産額(圓)	三四五、〇〇〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇、〇〇〇	(〇・〇九)
礦産額(圓)	六四一、〇〇〇、〇〇〇	二五、〇〇〇、〇〇〇	(〇・〇四)
工産額(圓)	六、九五六、〇〇〇、〇〇〇	二六一、〇〇〇、〇〇〇	(〇・〇四)
貿易額(圓)	四、二七二、〇〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	(〇・一二)

表は大正八年の統計を取つたものであるが、この年は好景氣の絶頂に達し内地も朝鮮も産業の極力伸暢を見た時であるから國力比較には最も適當なりと信じたのである。その後の統計は不景氣の頓挫を受けてその真相を發揮せぬのである。これに依れば日本に反抗して獨立することは勿論、日本の容認を経るも亦た容易に獨立に堪へぬことは明白である。唯だ生きてさへ行けばそれで宜いと云ふのであれば論外であるけれども、それでは世界一般の生活狀態と離れて益々之と遠からんとするものであるのみならず、現狀を維持し現狀に停止することも亦た困難である。蓋し今日の現狀を維持することは日本の人力と財力とが注入されたる結果であつて、一たび日本の人力と財力との援助を失ひた後朝鮮は非常に落漠たるものたるを免れぬのである。日本は從來朝鮮併合の前後よりして朝鮮に種々

費用を投じて居るが、其額臨時軍事費を以て支辨したる京釜鐵道敷設工事費を外にして中央政府の支出額明治四十年より大正十二年度に亘り軍事費行政費朝鮮財政補充金等計三六六、一四五、〇〇〇圓の多きに及び、又公債募集額明治三十八年より大正十一年に亘り四二六、八四二、〇〇〇圓の多きに及び、兩省合計七九二、九八七、〇〇〇圓の巨額に達して居る。この巨額の費を以て日本の政府は朝鮮に對して官衙、學校、病院、水道、各種の産業機關、道路、貯水池、堰堤、築港、鐵道其他を建設して之を朝鮮に與へ尙益々之を與へんとして居る。今夫朝鮮の國土の内より此等一切の建設物を削除して掛ければ朝鮮には果して何物が残るであらう乎。

この外日本の個人及會社の投じたる資金數億を算するであらう。此等も削除して掛ければ更に朝鮮には何物が残るであらう乎。今此等の物を一切破壊して内地に持歸らば事態は最も明白であるが、豈夫に斯の如き事も出来ない。乃で朝鮮が愈々獨立すれば朝鮮に對して此等の物を賣却することになるのであらうが、朝鮮に斯かる買収の能力なきが故に、その儘之を贈與するか若くは日本の政府及私人に於て一部その經營を繼續することゝならう。兎に角その翌日より日本の政府及人民が主たる援助を朝鮮に對して遮断するときは朝鮮は果して何うするであらう乎。殆ど一文の經營資力もなく如何に此等の建設物を繼承し又は擴張して之を活用運轉するであらう乎。或は外國の資本を輸入して之を便すると云ふであらう乎。然し朝鮮の如き貧弱なる國土に對して果して如何なる邦國が之に資金を投する

であらう乎。恐くは一金をも投せぬであらう。獨り日本のみが特殊の關係と因縁とを以てして無限に其費を支辨することゝなつて居るのである。日本は朝鮮の無限の恩人である。

乃で聊か思慮ある獨立論者は自ら朝鮮の實力資力に省み『今は獨立が出来ぬ』と云ふ。而して『他日文化が向上し國力が恢復した後は獨立を行ふ』と云つて居る。然しその時になつても朝鮮は恐く獨立をするだけの國力を有せぬであらう。既に説述せる如く朝鮮の國土はその土壤力に於て最極度日本の七割五分に相當する資質より有せぬ筈である。蓋し米の一反歩當は日本の二石に比し略ぼ一石二斗を以て標準とするのであるから日本の六割にしか相當せぬ譯であるけれども、假に極度の一石五斗を標準とし七割五分にして置いたのである。而して農業の外他の水産業、林産業、鑛産業等直接國土に基礎を置く産業にして同じくその資質の比如何を稽ふるに、此等を一括して亦た略ぼ日本の四割五分に相當する資質を有するに過ぎざるやうに思はれる。蓋しこれを各個に分割して考ふれば、水産業は朝鮮人の漁業法及漁業能力にして發達すれば日本と略ぼ同等の十割の生産能力を發揮し得るものと認めらるゝが、林産業に至ては恐く一割五分の生産能力を發揮するに止まるべく、又鑛産業も恐く二割を發揮するに過ぎざるものと想像せらるゝのである。これ等は到底精密の計算は出来ぬけれども國土の状況に就き略ぼ觀察せらるゝ所である。而して此等を一括平均するときは亦た四割五分となるのである。然るに偶々日本の例に徴すれば農業と此等の諸産業との國力比は約七割五分と二割五分となつ

て居るから之を準用し朝鮮の産業力を算出すれば左の如くなつて來るのである。

國力比	資質	面積
農業	$.75 \times .75 = .56$	$.57 = .32$
其他	$.25 \times .45 = .11$	$.57 = .06$
		$1.00 \times .67 = .67$
		$.57 = .38$

即ち朝鮮の國力は日本の國力に比し農業だけでは僅にその三割二分に當つて居るに過ぎないが、諸他の産業を加ふるも亦た僅に三割八分に當るに過ぎないのである。國土の資質六割七分に過ぎざるに國土の面積五割七分(海岸線も六割にて略ぼ同じ)に過ぎないから斯から貧弱なる結果を顯出し來るのである。

要之、朝鮮の天然資源たる國土は將來永久に殆ど全く永久的に日本の國力の四割未滿に相當するに過ぎないのである。この微力を以てして敢て獨立を説かんとするのである。獨立論の如何に虚妄なるかを觀察するに餘あるのである。

或は工業の發展を説くであらう。然し工業の發展は漫然として之を説くことが出来ない。蓋し工業は(一)材料の豊富なること(二)動力の潤澤なること(三)賃錢の安きこと(四)智識技能の優れること(五)器械力の卓越せること(六)先進關係の存すること(七)市場に近きこと等諸條件の一が具備するに非

ざれば特殊の發展を遂ぐるものではないのである。材料の豊富なることゝは性質上工業材料となるべき種類の多いと云ふことか又は種類が少くとも特殊の材料が非常に多いと云ふことであるが、朝鮮にはこれ等の意味に於ける材料に乏しく僅に若干の米、麥、繭、生絲、棉花、甜菜、葡萄、鐵等を得て之に相當する諸工業の起るに過ぎないのであらう。これと同時に動力に乏しき點は非常の欠陥と云はざるを得ない。或は無煙炭若くは褐炭の特別燃焼方法も發見せらるゝであらうが、幸に然るときも僅に他と平等の關係に立つのみである。尙水力の絶無なることは窮極至大の欠陥と云はざるを得ない。賃錢の安いのは唯一有利の點であるが賃錢の少いのは能率の少いのを意味すると同時に將來は餘り東洋勞動者の賃錢も安くはなからう。智識技倆の優れること及器械力の勝れることは目下の處は全然之を欠ひて居るのであるが、遠き將來に於ては若干之を補ひ得るであらう。極端に云へば日本其他と全く同一になり得るであらう。而して日本が獨り比較的有利の工業的發展を爲し綿工業の如き敢て他國の材料を輸入しながら自國の需用を充たし更に其餘を諸外國に輸出し尙其他の諸材料にも加工を施して再輸出を爲し得るが如き經營を敢てし得たるは全く東洋諸國に於て先進關係を有したる爲であるが、この先進關係は最も有利であつて他の諸國が逐次工業の自立を遂げ之に追隨し來るも尙若干年間優先關係を持続するものである。而も朝鮮に在りては斯かる先進關係あるなく、他國の材料を用ひ之に加工して盛に之を外國に再輸出し得るが如き日本の好例を追ふことは出來ないのである。幸に市場に近

き一利あるも朝鮮に工業の起る時分には支那にも印度にも工業が勃興する時期であるから市場は却て先方から失はるゝことゝなるであらう。要之、朝鮮には格別工業に有利なる條件はなく寧ろ之を欠くこと多き實狀なれば、恐くはその比率も低率なるものと見るべく、先づは日本の七割位の資質を有するものとしたら宜からうかと思はるゝ。而してこれを更に日本の三割八分に相當する基本の國土力即ち天然資源と人口力の少きとに對比せしむれば結局日本の二割七分に相當する工業生産力を有するに過ぎなからうと思はれる。これを更に三割八分の國土生産力と工産力と對々半々の比にて平均するときは當に三割三分となるのである。

商業も朝鮮人が特に仲介貿易に卓越せる技能を有するに非ざる限基本國力の反影として依然として右の三割三分の比率を承くるに過ぎないのである。

結局朝鮮は日本の純三分の一に相當する國力を有することゝなるのである。

一〇、再び獨立を口にする勿れ

朝鮮人の一部が獨立を企圖するも今直に日本に抗敵してその志を達するの見込なきは既に明白である。乃で彼等は外國の力に依りてその目的を達せんと種々なる運動を試みるのであるが、ヴェルサイユ會議に於ても華盛頓會議に於ても責任ある政治家は全く之を相手にしない。それは相手にしない筈

である。朝鮮併合の際日本の政府はそれ／＼外國の政府に對し爾か／＼の理由を以て朝鮮を併合するから此段御挨拶をする御異議が御座らぬかと云ふ念が押してある。而して列國は之に對して異議がないと云ふ回答をして居る。それも日本が國際上劣等の地位にあるなら格別世界五大國の一であり且つ華盛頓會議では世界三大國の一である大國なる以上之に對して取り止めもない朝鮮人の書生の空論を取次ぎ聞き直つて談判を試みる非常識の政治家もあるまいではない乎。それも尙且つ日本が朝鮮に對して非常の惡政虐待を敢てしつゝあるものなら兎も角、故ルーズベルト氏をしてその治政の績に感嘆し一言の異論なしとまで讚評せしめたる程のものに對し誰が果して何と云ふべきであらう乎。英國の印度統治に對してはブライヤン氏は随分深酷なる批評をして居る、又米國の元老院は愛蘭の獨立に對して公然贊援の意を表して居る。然し此等は印度及愛蘭の統治に於て隨分他の批評を容るべき惡政虐待の跡を存するからである、殊に米國民中には愛蘭の血統を承繼する者が非常に多數だからである。日本の朝鮮統治に對し世界一國として眞面目に異議を挾むべき不明の政治家はあるべき筈がないのである。

朝鮮の獨立論者は外國の援助なきに夫望し自暴自棄の結果陰險兇惡の手段を以て當路の大官を威嚇し朝鮮統治の志を放棄せしめんと企圖して居るが、世界到處共產主義者あり社會主義者あり無政府主義者あり虛無主義者あり其他の不退主義者あり此等の輩常に爆彈暗殺等を以て威嚇の常習手段として居るに拘らず、如何なる邦國も如何なる政治家も此等の手段に恐れ未だ曾てその政府を撤廢しその主義政策を放棄するものはないのである。斯かる手段は頗る淺薄無識を極むるものであつて自他共に個人として傷くのみで大勢には何等の貢献がないのである。

朝鮮の獨立は(一)今直に自分の力で出來ず(二)外國の力でも出來ず(三)又或る他の手段でも出來ず(四)更に假に日本より容認せられても直にその任に堪へず(五)或は尙之を後年に譲るも竟にその實力の足らざること明白なるに至ては獨立を唱ふるも窮極全く無意義であるから之を止したら宜からう。蓋し朝鮮人諸君は今後再び獨立を口にする勿れである。唯だ専心一意その生活を向上し經濟的社會的發展を企圖すべきである。有害無益の荒誕無稽の政治論を試みても竟に何の役にも立たぬのである。

日本人諸君も亦た獨立を口にするは止したら宜からう。明治四十三年の併合の詔書は炳として日月の如くである。今更その大旨に悖り自ら疑惑して彼是獨立を私議するは失態の甚しきものである。併合の大旨は韓國公共の安寧を維持し民衆の福利を増進せんとするに在りて、特に民衆の康福に關しては『産業及貿易は治平の下に顯著なる發達を見るに至るべし』と宣らせ給ふて居る。無限の大御仁徳心であつて、現にこの趣旨の下に朝鮮の産業及貿易は顯著なる發達を遂げて居る。これを將來に愈々益々推し進めて行くのが日本人の義務である。而かも苟も朝鮮に獨立を許すが如くんば忽ちこゝに逆轉を生じ事實上民衆の康福を誓ひ産業を破壊するに至るべきである。日本人は唯だ夫れ併合の大旨に

進ひ朝鮮の文化を進め産業の發達を助長すればそれで宜いのである。斷じて獨立を論議するの要を見ない。詔書にも俄に「永久」に韓國を「併合」する旨を宣らせ給ふて居る。誰が又敢て獨立を私議せんやである。

朝鮮の獨立論者は曰ふ、「今は出來ぬけれども將來文化が發達すれば獨立をする」と。淺薄なる日本人も亦た「將來文化が發達すれば獨立を許さなければならぬかも知れぬ」と曰ふ。然れども文化發達の上にも亦た朝鮮の國力の貧弱は既に前述の通僅に日本の三割三分に相當するに過ぎないものとすれば日本の意に反して獨立することは勿論不可能なると同時に、日本の好意に依りて獨立するも恐らく一國を支へることは不可能であらう。凡そ一國を支ふるには現代に於て相當の國力を要するものであつて相當の國力以下にては一國經營の任を全うすることが出來ぬのである。殊に軍備を要するときは一層その國力の大を要するものであつて、偶々朝鮮が日本の好意に依りて獨立する場合には、日本に對して軍備を要しないけれども他の大陸諸國に對しては相當の軍備を要することとなる。而かもその貧弱なる國力を以てしては到底之を保持することが出來ないから、朝鮮は他の大陸諸國の爲に征服せられその領土を失ふことになる。何れにするも獨立を得ないことは同じである。乃でこの場合には特に日本の軍備に依頼することとなるのであらうけれども、而かもこの場合に日本が尙強大なる陸軍々備を有つて居るか何うか疑問であると同時に、朝鮮の國防を常に日本が擔任するやうでは日本は果して之

に獨立を許すであらうか何うか一層疑問である。乃で朝鮮は國防の點に於ては更に並に外交の點に於ては敢て獨立を希望しないが、内政の點だけでは獨立をしたいと云ふことになるであらう。これが所謂自治とか云ふのであらうが、これでは一向獨立策もしないと同時に、國際上主權の存在主權の誇は外交權と軍備權とを有するに在りて自由の意志を發表し自由の行動を爲し得るから始めて獨立と稱し得るのであるが、それが外交權も軍備權もなくして他の制限を受け他の保護の下に立つやうになつては最早獨立の名譽も事實もないのである。而かもこの自治も敵意を以て得るのでは頗る不愉快不完全なるものであつて、既に外交權軍事權を托したる善意好感と矛盾するのみならず、常に之を維持するに不安を感じるのである。乃で飽迄も主權國の好意を以て與へらるゝ自治でなければならぬのであるが、既に主權國の好意に依る以上は故らに主權國の意志に對して別意を立つるの要もなく充分に主權國の好意に浴したら宜からうと思ふ。それに内政の自治をすると云ふことは主權國の統治に比し一層良好の成績を擧げ得ると云ふ期待がなければならぬのである。勿論この場合に自治を得なければ特別に壓迫を感ずるとか若くは不利益を感ずるとか云ふことがあれば寧ろ自治を撰ぶ方が得策であるけれども朝鮮の場合に於ては日本より何等の壓迫も不利益も受くることなく在來の政治に比すれば雲泥の相違の安全と自由と幸福とを得て居るのである。或は義務教育で學齡兒童を學校に送らねばならぬとか若くは日本語を習はなければならぬとか若干窮屈の點もあらうが、これは日本の統治者が親切を以

てすることであるから悪意に之を迎へぬが宜い。眞に窮屈で堪らぬと云へば自ら主權國とも相談の餘地があつて直に之が爲に自治を要求せねばならぬことはない。それが爲に他の重大なる利益を犠牲にすることは朝鮮の爲に不得策である。朝鮮が自治をすると云ふことゝ日本が統治を擔任すると云ふことゝの間には非常の相違があつて朝鮮が自治をすればその開發は非常に後れて劣等なるものたるは争はれない。而かも日本はその統治の爲に非常の損失を忍び煩累を重ねるのであるが、特別の關係と人類正義の觀念の爲にその義務に従ふのである。日本は元來外交權と軍事權とをのみ掌握する統監政治を利益とし、朝鮮人が發達しようがしまいが如何なる生活をしやうがしまいがそんな事には頓着なく西洋人のその殖民地人民を扱ふ如くその名譽も存在をも顧慮せず唯だく放棄つて置けばそれで宜しいのであるが、それが出来ないのは日本人の特性であつて、親切心が餘あり、又大御心に叶ふ所ありと信じて居るのである。

或は曰ふ。「日本だつて貧弱極まる邦國である米國や支那の大に對しては國力の點に於ては到底その幾割にしか當らぬではない乎」と。然り、その通である。然れども一國の外國に對する力の關係は必ずしもその國力の全部ではない。その國力中の一部が外國に對して特にその力を發揮するものなると同時に、偶々外國に對して發揮する部分の國力を多く藏する國はそれだけ多く對外力を有する譯である。殊に軍事に關してはその特徴が最も多く現はるゝのみならず、更に戰略的展開の關係と地理的

關係とが之を補償して比較的小國力の邦國を以てしても尙且つ能く大國力の邦國と對敵して餘あらしむるのである。これと同時に大國には偶々その内部に疾患を藏するものがあつて自らその大國力を發揮することが出来ない場合がある。支那の如きはその最も顯著なる例である。要之、この般の關係は恰も一人の勇士が木立を楯に取つて多數と相闘ひ又小軀の力士が大軀の力士を相手にして力を角するが如く自ら別に頼む所あると同時に亦た自ら一定の力倆技能あるを要するが如きものである。我日本の如きも漸くその國力の貧弱を感じ大に之が擴張充實を企圖せざるべからざるを知るの際に當り、特にその將來僅に三割三分の國力を有するに過ぎざる朝鮮を以てして能く獨立の大負擔に堪へ得べからざるを知るは最も大切なことである。

朝鮮の國力は窮極日本の三割三分である。然しこれを個人としては必ずしもこの率に相當するものではないのである。偶々朝鮮は日本に比し人口が少き故に富の分配の程度は比較的潤澤なり得るのである。左の算式の如きものである。

$$\text{日本の富の 3割3分} + \text{人口の 3割} = 1.1$$

即ち朝鮮人は個人としては將來日本人と對々平等の經濟的社會的地位に就き得るのである。而かも是れ一に日本の指導及産業の開發に依る所である。

一一、唯だ夫れ産業の開発

日本の國力は前出表に依れば商業を除き一年約百三十億である。これに對する將來の朝鮮の三割三分は約四十三億である。而して現在に於ては朝鮮は亦た僅に十八億未滿の國力を發揮して居るに過ぎないのである。朝鮮人は宜しく奮勵努力してこの十八億未滿を四十三億に増加しなければならぬのである。一見すれば比較的容易の業であるやうであるが、産業の大宗たる農産業は既に一定の程度まで發達を遂げ居るに拘らず尙米の産額を水田の擴張と耕作法の改良とに依り倍額以上に増加するを必要とすると同時に其他の農作物も現在以上に五割の土壤力を増加發揮せざるべからざるものあり、これ容易の業に非ざると共に、水産額を三倍にし林産額鑛産額も若干の増加を爲したる上、工産額を六七倍にしなければならぬ。而かも前表は現在既に併合當時に比し八倍餘の發達を遂げて居るから通計無慮五十倍の發達を遂ぐることもなるのである。これ寧ろ驚くべきである。而かも是れ尙日本が現狀に停着して居るものとしての想定であるが、若し日本が日進月歩の勢を以て發達を進めて行くものとすれば、朝鮮は更に一層の駈足を以て追從して行かなければならぬのである。政治論どころの騒ぎやない。然し日本も貧弱である、朝鮮ばかり貧弱でない。乃で俱に奮勵努力して國力の充實を圖り更に相携へて國外の大發展を企圖せなければならぬ。それには朝鮮は自ら其基地となり得る。滿州然り、

蒙古然り、西比利然り。日本と朝鮮とは大にその將來の生存繁榮の爲め大陸的發展を策せねばならぬ。

今や朝鮮に關しては唯だ夫れ一の産業開發政策あるのみである。

一二、公營政策を取れ

朝鮮の産業開發に關しては如何にしてもその大宗たる農業より開始せなければならぬ。農業の開發は耕種耕農法の改良と耕地の改良擴張等であるが、此等の點は總督府の指導努力固より遺憾なく一言の加ふべきはない。唯だ耕農法の改良には施肥問題が最も大切であるが、施肥の問題は小作制度の良好ならざる限解決に至らず施肥の宜しく行ふべくして行はれざる所以である。乃で予の私見に依れば施肥の問題は宜しく官に於て之を担任し官自ら地主と小作人の間に立ちて肥料を供給し收穫餘剰の上より地主と小作人との利益及肥料費並其若干の利潤とを分配回収するやうにしたら如何かと思ふ。固より其方法の複雑にして在來の小作法に一層の煩累を重ぬるに過ぎざるやうでは論外であるが、専門家の研究に依り幸に何等かの簡便なる方法を發見し得れば幸福である。或は地主組合に對し或は小作組合に對し中間に在りて何等かの施し得べき策はなからう乎。これと同時に大規模なる耕地の改良及開墾开拓等は總督府に於て自ら之に任じ敢て國田として之を經營せんことを希望する。土地問題小作

問題等は内鮮を通じて早晚之を解決せなければならぬ大問題であつて、或は朝鮮自ら先鞭を着けて大改造大革新を行ふことが最も妙であるかも知れぬ。殊に朝鮮に於ては國田の制は最も適切であつて農事の改良進歩に絶好の模範を示すものと考へらるゝ。

更にこれと同時に農家の副業たるべき家内工業及手工業等は極力之を奨励すると同時に、苟も採算計畫の許す範囲内に於ては總督府、道、郡、島、府、面に於て自ら工場を建設し此に敢て公營主義を開始して事業を經營し賃金を給して鮮人を工場に誘致し工業に慣れしむるやうにしたら宜からうと思ふ。由來朝鮮人は安逸遊惰を貪り家内工業手工業等を如何に奨励しても容易に之に勵精することはなからうと思はれる。乃で之に直接賃金を給してその慾心を誘ひ更に日進文化の品貨を工場に陳列販賣して重ねて之を刺戟する方法を取らば、朝鮮人も不知不識の間に業務に勵精し工業に慣熟するに至るであらうと思はれる。朝鮮人の安逸遊惰にしてその生活の低級なるは在來の貧窶の結果自暴自棄に陥り慾心を喪失したるが爲であつて兼ねて世界を見ざるが爲め平然として之に慣熟するに至りたるものと思ふ。乃で之に若干の刺戟を與へその慾心を咬るは最も必要であるやうに考へらるゝ。斯くして在來の無統制なる家内工業に一種の生命を與ふるは、漸がて朝鮮人をして比較的大規模の工業に入らしむるの階梯である。就中在來の家内工業又は小工場工業に屬せるものゝ内機業、製紙業、製革業、醸造業、窯業、金工業等は逸早く大規模工業として經營せしむるやう誘導助長せなければならぬ。

公營主義を取るは朝鮮の産業に一の模範を示すと同時に、將來に於ける社會改造政策の一例たらしむるものである。

水産業に關しては日本の漁船一隻に對する三隻漁夫一人に對する四人と云ふが如き比率を絶し日本人と同等たらしむるやう朝鮮人の能力を向上せしめなければならぬ。

林産業と鑛産業に關しては別段特殊の手段の施しやうもないが、尙出來得る限その開發々展を希望せなければならぬ。

一三三、松毛虫の退治法

朝鮮の造林業に關して最も難估なるは松毛虫の問題であつて、その虫害の激甚なるや發生地方廣大なる面積に亘りて一列に赤松黒松の林を枯死せしむるに至り、百年造林の功を一舉に喪失せしむることである。朝鮮人は古來松毛虫は松の樹が枯れなければ絶へないと云つて居る程だが、その松毛虫が列を成し群を成して地上を渡るときは汽車の車輪も油の爲め廻らぬと云ふ位であるさうな。嘘のやうな話であるが驚くべきことである。乃で總督府では非常に苦心して官民力を協せて只管その驅除に努めて居るが、大正八年の被害面積三十六萬三千町歩、此被害價格八十八萬圓、驅除人員延數百二萬七千人、驅除數量幼虫兩成虫卵等無慮二千二百萬石に達して居る。この費用は總督府の支出額は僅に二

万九千圓であるが地方費及個人の支出のものもあつて相當の額に上り、又小學兒童其他社會奉仕として之に任ずるものもありとのことである。概して手を以て杖々に攀ぢ之を驅除すると同時に場合に依りては藥液を水に混じり筒を以て之を吹き懸けるとのことであるが、如何にもその人力の迂なるに失望せざるを得ない。予の私考に依れば何等か無線電波の放散に依り若くは藥液又は毒瓦斯を飛行機にて散布するが如き便法に依つたら如何かと思ふ。これは専ら理化學者の専門的智識研究に依らなければならぬのであるが、近代の理化學者はこれ位の研究に應ずる智識上の準備がある筈である。現に米國其他では飛行機を以て有煙の毒瓦斯を散布し田園の害虫を驅除しつゝある状態である。要するに草木及人畜に害なくして能く害虫を殺滅し得べき電気、光線、藥液、若くは瓦斯等を發見すれば足るのである。

一四、朝鮮人の生活改善

朝鮮民屋の矮小なるは恐くは一は温突の爲めであらう。温突を焚くには比較的住居の小なるを要するからである。宮殿とか堂塔とか樓閣とか寺院とかの建築物には勿論高大のものもあるが、それでも人の常に在住する部分には温突を設くるの必要ある爲め低長なる建物になつて居る。貴族や富豪の家は流石に瓦葺の建築になつて居るが、例の中門と内庭とを構へて外房と内房とを分つて居るから、そ

の低長の棟の並列して居る状は恰もボギー車の三四を列べたやうに感せらるゝ。普通の民屋では土壁の一重で外舎と内舎とを分つて居るが、何にするも朝鮮の住屋は矮小狹隘なるものである。二階などは全くない。朝鮮人はこの矮小狹隘なる住屋に棲み冬期を通じて一年の約半を温突の上に安居して居るのであるが、男女を分たず行住座臥煙管を手にし煙を口にし泰然として暮して居る。一室の内には格別家財道具らしきものも認めないが、その状恰も旅舎に一日を送るが如きものである。氣候温暖に於て漸く農繁期に入るも多くは出で耕さず、只管部落に群居して地上に將碁を闘はし、雨降らば天休日を賜ふものなりとして業を休み、日照らば五穀豊穰すと云ひて天を祭り酒を呑み且つ集ひ且つ唄ふて居る。而してその住屋の柱には一本／＼立春大吉とか福德天來とか花雲柳水とか江風清月とか云ふやうな迷信じみた若くは風流じみた名文句を張出し、悠々たり閑々たる人生觀を發露して居る。誠に泰平の至であるが、然し安逸遊惰を極むるものと云はざるを得ない。加之虚禮には最も煩を極め、所謂長幼序ありて親子食事を俱にせず、男女別ありて夫婦房を分ち、孝とか禮とか云つて老幼互に數月若くは數年喪服を着けて居る。如何にも現代思想に遠かざるものであつて排斥せざるを得ぬ。恐く支那の教を極端に墨守するものであらうが、百害あつて一利なく腐學腐徳を極むるものと云はざるを得ない。長幼序ありと云ふも飯を食ふに親子時を異にし順次に殘肴を喫するに至ては驚かざるを得ない。主人客を饗し若くは樓亭に酒を呼ぶもその卓上に盛れるの佳肴は山の如く數十器並列して殆ど箸

を執るに惑ふ程なるに拘らず而かも時を距て、逐次數人乃至十數人のその卓を待つ者ありと云ふに至ては殆どその不衛生と不愉快との感に堪へぬのである。又男女別ありと云ふも狹隘なる住屋の裡家族房を分つも不自然なりと云ふべく、朝鮮の婦人は成程お化粧をし綺麗な着物を被て居るには相違なからうが、彼の住屋では恐く深窓の婦人とも申上げ兼ねるのである。近時都會の婦人は漸く街衢に出づるに至つたと云ふことであるが、固より當然なりと云ふべく、又地方に在りて田甫に足を容るゝの婦人は絶無であつたが、近時日本の婦人が水田に草を取るのを聞ひて稀に之に倣ふ者あるに至つたとは倣ふべき現象である。喪服を着くるの點は固より孝貞の美德であらうが、餘りにその度に過ぐるときは却て虚偽となり人の感情を害すると共に自らもその精氣を沮喪することとなる。朝鮮の路上餘りに多く喪服を着けたる者を見るは却て餘りに好感を惹かぬのである。

朝鮮の服装は簡便優雅であつて頗る宜い。恰度伊勢の徴古館に在る我が上古風俗の人形の服装に似て居るやうであるが、非専門界の野人には少しも判らないけれども何か我が上古の國人と一貫したる關係があるのではないかと思はしめる。それ程朝鮮人は單純なる生活を上古以來その儘その風俗を存續して居るものとも思へるが、何にせよこの服装は体裁實用共に頗る佳良である。婦人の服装は殊に最も淡麗優雅である。朝鮮の婦人が外出するときは頗る綺麗な服装をして居るが、随分澤山の着物を有つて居るものと云ふに然うでもないと思ふことである。着物の手入保存には餘程苦心するものと見へる。

然し朝鮮の白服は如何かと思ふ。自然汚れることを厭ふて活動に勇ならざるの弊はない乎。又洗濯に追はれて朝鮮の婦人は殆ど他の餘力がないのではないかと思はしめる。

一五、温突廢止論

朝鮮人の安逸遊惰性は大半温突から來て居る。温突のある爲に朝鮮人はほか／＼と好い心地になつて一年の約半を屋内に晏眠を貪つて居る。従て焚物に困るから山と云はず野と云はず木を取り盡し果ては草の根までも掘くり返す。山野の荒廢する所以である。乃で朝鮮には温突廢止論がある。然り、温突は直に廢止すべきものである。朝鮮人は少しでもその生活の様式を改め内地人同様の家を建て内地人同様の活動の方法を撰ぶやうにしなければならぬ。然うせぬと貧乏の神は藁葺小舎の家に付き纏ふて離れぬのである。

然し温突廢止論の多くは主として焚物の點から來て居る。朝鮮人が焚物を獵るが爲に山野が荒廢するからそれで温突を廢止しようと思ふのである。然しこの點に於ては温突廢止論は頗る無力のものとなつて了ふ。何となれば温突を廢止する代りに朝鮮人は新に多量の衣服と蒲團とを調達しなければならぬからである。朝鮮人は温突の上に日夜起臥して居るから着物も薄く蒲團なぞも格別之を用ひずそ

の儘ごろ／＼と寝て了ふのである。乃で新にこの着物と蒲團とを調達することは大問題であつて、殆ど焚物を得るの比ではないのである。焚物の點に於ては少しく意を用ひて殖林輪伐の法を定むれば左程に之に困却せざるのみならず、可成農家に桑、楮、麻、其他の物を植付けしむれば餘程之を補ふことが出来る。又不要存林を貸下げて任意に植林し任意に伐採せしむるも可なりである。平壤の無煙炭及褐炭等を特別焚燒する方法を發見するも一法であるが、溫突にはその裝置六ヶ數かるべく又價格の點に於ても許さぬ事情があるだらう。要するに焚物の點だけでは溫突廢止論は容易に實行力を有して來ないけれども、民族遊惰の風を絶滅するが爲には何うしても之を廢止しなければならぬ。廢止するには勿論困難を伴ひ一時には行はれぬけれども、恰度葦葺屋根の瓦葺屋根に改むると同じく逐次にその資力の充實を俟ち充分の衣服を整へ蒲團を備へ普通の他民族と同様自由に活動し得る如くしなければならぬ。この意味に於ては屋内の一部に溫突を備ふるも可なり露西亞式暖爐を整ふるも可なり又改良朝鮮式暖爐を裝置するも可なりである。要するに衣服がない爲に外出することが出来ぬとか蒲團がない爲に遊惰の風を脱することが出来ぬとか云ふことが無いやうにしなければならぬ。然らざれば世界一般の普通の活動的の民族とはならぬのである。

一六、殖民地扱の不可

朝鮮は貧弱なる國土である。これを普通の外國殖民地の如く豊富なる資源を有するものとして之より富利を獲得するが如くに考ふるは非常の誤である。朝鮮には斯かる富利は少しもなく在來の民族を養ふだけでも著しく欠乏を感じて居る。然るに内地人が朝鮮にさへ行けば一攫千金の利益を獲得し得るが如くに考へて之に臨むのは自ら意外の失敗を招くの原因たるのみならず大に朝鮮人を害ふこととなるのである。この事は随分過去に於て例のあることで著しく朝鮮人の怨恨を買ひ今日まで統治上の難信を感ずる原因となつて居るのである。内地人が朝鮮に行つて金儲を爲し得る範圍は内地人が行つて始めて起る新事業例へば鐵道、築港、船舶、運輸、鑛山、新式工業等の諸事業か若くは在來産業の改良又は擴張に依り増價収益を爲し得る事業例へば農事の改良開墾干拓並に造林水産等の諸事業である此等より内地人が利益を擧ぐるは正々堂々たるもので何等憚る所ないのであるが、然し此等の事業と雖も朝鮮人が本來その能力を有するものとするれば當然自ら經營してその利益を擧ぐる筈のものであるから、朝鮮人の虚に乗じて内地人が獨占的の利益を壟斷することは不道德と云はねばならぬ。或はその國土力たる基本の條件に價値を認むるか若くはその事業に参加せしめて當然朝鮮人にも半の利益を享有せしむるやうにしなければならぬ。然らざれば是れ同胞兄弟の國土を誘導開發するものとならざるのみならず純然たる殖民地扱の妄擧とならざるを得ぬのである。況んや單に朝鮮人の事業に代り若くは之を横奪するが如きは一層非道德の擧となるのである。

或は朝鮮銀行とか東洋拓殖會社とか其他とかその建築物等の外觀に於て宏壯雄大を極むるは一種の政策上有理なりとするもその事業の内容まで之と同じく宏壯雄大の經營を進め動もすれば放漫無節制に亘るが如きことあるは最も慎まざるべからざる所である。何となれば朝鮮の國土は極めて貧弱にして斯かる宏壯寛濶なる經營の餘裕を認むることが出来ぬからである。所謂勘定合つて錢足らずでなくして最初から勘定合はず錢足らずで決算の際にポロを出すのは當然である。

一七、朝鮮人の不平

朝鮮の統治に關し或は朝鮮人側に諸種の不平があるやうである。これは當然である。設令獨立とか自治とか云ふことではないにしても相當の不平のあるのは勿論である。然し能くその内容を聽いて見れば左程ではなくして(一)内鮮人の差別があり過ぎるとか(二)内地人の官吏が多過ぎるとか(三)官用語が内地語であるとか(四)内地人が朝鮮語を話さないとか(五)枯枝を最少し取らせよとか(六)朝鮮の風俗を尊重して餘り之を無視するなと云ふやうなことである。言はゞ些々たる問題である。斯んなことで内鮮の融和を妨ぐるやうなことがあつてはならぬ。斯かることは如何様にも話合の付くことであつて現に總督府は出来るだけの考慮を拂ひ事情の計す限朝鮮人の希望を採用し内鮮差別の撤廢、朝鮮人の登用、朝鮮語の奨勵、慣習風俗の尊重等着々之を實行して居る。總督府近年の新施設は悉く此等

の事を含まざるはないのである。殊に民意の暢達に至りては大正九年十月一日より斷然新地方制度を實施し道には道評議會、郡島には學校評議會、府には府協議會、面には面協議會を設け選舉の制を並用し道知事、郡守、島司、府郡、面長等の諮詢に答へしめ民意暢達の機關たることを得せしめた。未だ諮問機關にして議決機關に非ざるも將來に於ける地方自治制度の一階梯であつて、その成績の如何に依ては直に純粹の地方自治制度が施かれ、更にその成績の如何に依りては直に内地の帝國議會に上下兩院議員を送り得るに至り、員數も逐次多きを加へ結局人口數相當の比率を有し得るに至るべきである。斯くて全く内鮮人同様の地位に就くのである。所謂故原首相の内地延長主義なるものゝ行はるゝことゝなるのである。朝鮮人の修養にして一日早ければ一日早くこの境地に到り得るのである。朝鮮人にして不平あらば遠慮なくドシ／＼之を開陳すべきである。陰忍にして險惡なる不平を藏するは禁物である。これ兩者俱に誤解を招き自他共に傷く所以である。不平にして合理的ならば總督府にて之を聽くに吝ならざるべく、殊に慈父の如く朝鮮人を愛する齋藤現總督の如きは倅んでその希望を採納して呉れらるゝであらう。

一八、國語問題

小學兒童其他朝鮮人に國語を習得せしむることは、これは總督政治の朝鮮人に對する親切からであ

る。何ちみち將來は内鮮人相携へて生存しなければならぬのであるから、小供の時より内地語を習はして置けば何れ程利益であるかも知れぬからである。然しそれが窮屈で嫌だと云へばそれは各自の自由に任せて宜い、別に強制して之を習はしむるには及ばぬ。その代り官吏とか職員とか會社員とか店員とかに使用する場合に實際その能力作用に差別があるから自ら資格に一等欠くる所あるを覺悟せしめねばならぬ。強制して外國語を習はしめらるゝは最も僥倖であつて他日非常の得をするのである。これからは各民族共世界的の生活をするのであるから外國語の一つや二つ知らないと實際不自由をするのである。それが小供の間に不知不識教へ込まれるのである。何れほど本人に取つて幸福であるか知れない。而かもそれが厭だと云へばそれは本人の希望に任ずるまでのことである。これと同時に内地人も朝鮮に生れ朝鮮に在住し朝鮮に生活せんとする者は亦た同じく朝鮮語を習はなければならぬ。成人の後外國語を學ぶのは頗る困難であるが小供の時より習へば案外に容易である。學校は須く日鮮相互的とし日本語と朝鮮語と交互に之を習得せしむるやうにしたら宜からうと思ふ。兒童の負擔が若干重いやうにあるかも知れぬが、これからの世界人は最も適切なる外國語の二つや三つ知つて置く方が宜い。

一九、地方自治を許せ

地方自治の一階梯として道、郡、島、府、面等それごとく諮問機關の設定を見たことは前述の通りであるが、朝鮮人の修養の爲め一日も早く之を議決機關に改め同時に學校事務とか財務とかに限らず一切の事務に關して自治を許すやうにしたら宜からうと思ふ。然し無節制に之を許す譯にも行かぬ。宜しくその能力に應じて之を許すべきもので、或は學校事務の成績とか或は農事改良の事業の成績とか或は造林事業の成績とかを條件として逐次各地方に之を許すやうにしたら如何かと思ふ。恰も模範自治地方のやうなものが出来る譯であつて、自然競争の結果教育産業開發の事業が全鮮を通じて盛に徹底せらるゝやうになるのであらうと思ふ。

二〇、齋藤總督の人格政治

今や齋藤總督は只管に朝鮮の文化を向上し産業を開發し朝鮮人をして世界同等の生活状態に到らしむべく熱心苦慮して居る。その志たるや實に衷心より朝鮮人を愛するものであつて、殆ど堯舜の心を以てその任に膺つて居るものと云ふべきである。斯くして總督の善政主義徳政主義は漸く全鮮に徹底し朝鮮人の理解する所とならんとして居る。初め齋藤總督が文治主義を標榜して其任に就くや、恰も大正八年三月の大騒擾及同年八月の制度改正の後を承けたることゝ、何となく昔日の武斷政治に比し文弱政治の觀を呈し私に人をして憂慮せしめたのであるが、總督其人の人格と仁愛心と膽力とは能

く理想的に善政主義に合適し此等の憂慮を一掃して今日の威望盛徳あらしむるに至つたものである。齋藤總督にして今數年その任に留らば善政主義の根底恐く確立すべく全鮮泰平を驅ふことが出来ると思ふ。蓋しその膽力の勝れるや、流石に武人のことゝで爆彈など眼中になく國境巡視鴨綠江下船など二年も平然として繰返し不逞鮮人の銃撃など殆ど知らざるが如きものあるのである。而してその朝鮮人を愛撫するや溫顔以て之に接し毫末も隔意なく從て如何に僻みたる朝鮮人も一たび總督に會見の機を得るや翻然として自らその非を覺ると云ふ。蓋し是れ總督の人格政治其物とも云ふべく、齋藤總督其人の人格を俟つて始めて現はるゝ効果である。偶々朝鮮人が斯かる總督を得たることは至大の幸福なると同時に、日本の總督政治も又此人を俟つてその真相を發揮すべきものと思ふ。

二、職業的政治論を排す

日本の善政主義は單に朝鮮人を可愛がりその生存を慰安せんとするばかりでなく充分その權利と自由とをも伸暢せしめんとするものである。地方行政の諮問機關を設けたるが如きはその一端であるが、漸がて純然たる參政權を附與して結局帝國議會の議に參列し得せしむるに至るは明白である。斯くて日本國民としては内地人と毫も異ならぬことゝなるのである。但しこの場合に尙朝鮮の民族的權利を認めて朝鮮の自治を許せと論ずるが如きは不當である。日本は一視同仁國民平等の主義を取るも

のであつて斯かる割據的地方團體の勢力を認むるものではない。朝鮮の民族的權利を認むべしと云へば、九州の民族的權利を認めざるべからざるべく、東北の民族的權利、四國の民族的權利、琉球の民族的權利、北海道の民族的權利を認めざるべからずである。又出雲族の民族的權利、熊襲の民族的權利、アイヌの民族的權利をも認めざるべからずである。斯の如きは到底論壇の議に上ばすべき限ではないのである。

朝鮮の獨立論や自治論は本來何等の理論上の根據を有するものではないのである。獨立して何うするか自治をして何うするかと云へば、何うすることも出来ぬのである。今日何うすることも出来ぬのみならず、將來と雖も何うすることも出来ぬのである。然るに獨立論者や自治論者は常に不斷にその運動を續けて居る。而して兇器を弄び暴舉を敢てして居るから餘程急迫したる事情でもあるかと云へば然うでもなく、結局論詰めて見れば獨立も自治も今日は出来ぬと云ふのに在る。而してこれを後年に延ばすのだと云ふ。後年に延ばすのに何にも今日から急激の運動を試みるの要はなく悠くり構へて後年の志士に之を委せ自分等は晝寢でもして居れば宜い。後年の志士が果して同一の運動をするかせぬか疑問であるが、兎に角その間運動をして見ても無効のことであるから之を止した方が宜い。而かも後年に於て獨立や自治が出来るかと云ふにそれも出来ないものである。彼の貧弱なる國土力を以てしては將來に一國を支持することは勿論單純なる自治をすら支持することが出来ないものである。或は獨

立は困雄なるも自治は出来ると思ふ者があるかも知れぬが、一定の豊富なる資力を有するに非ざる限は自治も支持することが出来ぬのである。恰も山陰道が日本と離れて自治をし北海道が内地と離れて自治をするが如く到底獨立してその内政を支持することが出来ぬのである。例へば獨立して大學を建て獨立して道路を開き獨立して鐵道を敷設し獨立して港灣を築くことが出来ぬと同じである。何うしても日本國家の綜合國力の援助を俟たざるべからざるものである。自治も小區劃では比較的容易に行はるべきものであるけれども、大區劃に進むに従つて富力の廣大なるを要するものである。何となれば成すべき事業が益々大を加へるからである。朝鮮でも面、府、島、郡、道の自治位には堪へるけれども、朝鮮全國土に亘る自治を支持するには一見その國力の貧弱なるを感ずるのである。今日に於ける朝鮮に於ける高級學校、道路、鐵道、港灣等は朝鮮の今日の國力に於て不相應の設備なると同時に、これに準じたる後年の設備も亦た後年の朝鮮の國力には不相應である。朝鮮は何うしても日本の綜合國力の下に立ちその援助を仰ぐに非ずんば國土の經營を行ふことが出来ぬのである。日本は恐く之が爲に損をするだらう。然し東洋に於ける日本の地位は勢ひこれだけの損失負擔をするの關係に在るのである。而して偶々朝鮮がそれだけの得をすることになつて居るのである。

獨立はしないけれども自治だけはすると云ふことは、名を失つた上に損をすると云ふことになるのである。

結局獨立と云ふことも自治と云ふことも全く無意義で問題にはならぬのである。然し之を問題にするのは内鮮の一部に職業的政治家、職業的政論家、職業的運動家があつて態と之を騒ぎ立つるのである。天上には何等の異變はなく地上にも何等の異變はないのである。唯だ中間に一種の怪物があつて頻に暗雲を叱咤し邪雲を攪亂して氣象の陰惡を圖らんとしつゝあるのみである。天上には白日晃々として輝き地上には平和の春風そよ／＼として吹き渡つて居るのである。

朝鮮には一切の職業的政治論を排さなければならぬ。職業的政治論をさへ排すれば朝鮮問題は自ら雲散霧消し、唯だ山が緑くなり野が豊になるのを見るばかりであらう。

二二、獨立の一字

然し結局は朝鮮人も獨立の一字が欲しいのであらう。無理もないことである。然し獨立が出来ぬのに獨立をして見てもそれは空名である。穀ばかりである。粟の糞ばかりを拾つてもそれは詰らない。矢張中實を拾つた方が宜い。一体政治の目的は人民の安寧幸福自由を維持増進するに在りて國家はその手段たるに過ぎざるものである。既にその目的たる人民の安寧幸福自由にして保障せらるゝ以上は敢て復たその手段たる國家を論ずるの要を見ないのである。古來世界上國を立つるもの多しと雖も、その民族の安寧幸福自由即ち文化の性質が他民族と異なるが爲め互に之を犯さるゝことを好まざるが

爲であつて、文化の性質が偶々融合一致するときは自らその國家も互に融合一致し、或は聯邦となり或は一國となりて順次その國家の數を減少するの傾を有つて居るものである。これと同時に文化の性質及程度略ぼ一致するに至れば世界の人民は互に各民族たるの自覺を忘れ國家の觀念を離れて他民族と融合し茲に一團の社會的生活を爲すこと恰も北米合衆國に於ける歐洲各國人の如きものがある。我國人の如き國家觀念の強烈なる者に在りても尙且つ北米合衆國に歸化し進んで外國人たらんことを希望し寧ら之を權利なりとして國家も國民もその主張を支持した位である。二重國籍の問題も亦た法律を改めて之を一にし得んとした位である。世界上國の數を減ずるは自然の大勢なると同時に、或は進んで國境を撤廢せんとするものすらあるに至つた。然し進んで國境を撤廢するは文化の性質、略ぼ同一なるを條件としなければならぬ。文化の性質を異にし國境撤廢の爲め相互の民族の安寧幸福自由が侵害せらるゝ場合に於ては國境の撤廢は斷じて不合理なりと云はざるを得ない。露國の共產國家が内外に向つて國境の撤廢を叫ぶも他民族にして危儉を感じ之に一致せざるが爲め露國自らも却て國家組織の必要なるを感じ極端なる國境主義を取るに至りたるが如きその一例である。要之文化の性質一致するときは國家は融解消滅すべき傾嚮を有するも文化の性質一致せざるときは國家は特立嚴存すべき傾嚮を有するのである。日本は米國其他に對して國家を嚴立すると共に、亞細亞は歐羅巴に對して國家を嚴立すべく、有色人種は白色人種に對して國家を嚴立するのである。即ち國家は必要に應じ之を

建立すべきも無意味に之を建立すべきものではないのである。必要とは何ぞや。他なし、人民の安寧幸福自由是である。既に安寧幸福自由の確保せられつゝあるに何の必要ありて別個の國家を要せんやである。國家は手段のみ、これを二にするが如くんば同一の頭に二個の帽子を戴かんとするものにして寧ろ滑稽である。朝鮮が獨立して自ら國家を建設するは理論上に於ても實際上に於ても殆ど全く根據を有せぬのである。又獨立せざるも何等朝鮮人の誇を傷くるものではないのである。由來個人は自由にして獨立なるべきも國家は必ずしも故らに之を建設してその獨立に誇るべきものではないのである。蓋し個人の生存は目的なるべきも國家の生存は手段たるべければである。若し朝鮮人にしてその個人の獨立を侵害せらるゝときは特にその國家を建立するの必要を生ずべきも、彼等自らの國家を建設するよりは現に十數倍の安寧幸福自由を有する場合に於て特に獨立の國家を建設するの理由も權利も事情もないのである。或は朝鮮人にしてその朝鮮語を話してならぬとかその白服を着けてはならぬとか強制せらるゝときは恐くその固有の文化を侵害せらるゝものとして異議を唱ふるの理由を生ずべきも然らざる限朝鮮は決して日本の統治に對して異議を唱ふべき理由を見ないのである。日本と朝鮮とは大体に於て文化の性質を同くしその人種に於て文字に於て宗教に於て藝術に於て思想に於て生活様式に於て略ぼ同じであるけれども、文化の全部が必ずしも同一でなく、若干その言語に於て風俗に於て習慣に於て異なる所があるのである。これは一國內に於ても同じことで、支那の如きはその最も

顯著なる一例である。而してこの場合にその異りなる点を悉く禁厭せられ強制せらるゝに至ては殆どその苦痛に堪へず勢ひ文化の侵害を叫ばざるを得ざるに至るであらう。日本が内地語を朝鮮の兒童に強制することはその善意に出で全く親切心に出づることであけれども、若し朝鮮人がその苦痛に堪へず負担に堪へずすれば日本は必ずしも之を強制するの理由を見ないのである。獨逸の波蘭に對して獨逸語を強制したるは失政の大なるものであつたが、同化政策は強制しては可けない、宜しく之を誘導するが如くにせなければならぬ。朝鮮に内地語を普及せしむることも可成白服を避けて色服を着せしむることも濫突を止めさすことも之をその意志に反して強制することは宜しくない、任意にその希望に委せるやうにしなければならぬ。假に朝鮮人に對し決して日本語を話してはならないとか日本服を着けてはならないとか暖爐を用ひてはならないとか云へば、却て朝鮮人は朝鮮人を侮辱し虐待するものとして之を怒るであらう。物は考へ様である。日本の親切と自分等の利益のことに就ては餘り悪く考へぬ方が宜い。尙茲に誤解すべからざることは文化の性質と程度との區別である。文化の性質の異同は國家存廢の理由とはなるけれども文化の程度の異同は國家存廢の理由とはならぬのである。蓋し文化の性質は同じきもその程度異なるときはその程度の低きものが高きものに對し特立反抗すべき理由を見ないからである。宜しく文化の低きものは高きものゝ誘導扶掖を受け一日も早く同一の程度に達することを心懸くべきのみである。然しこの場合に於て文化の高きものが低きものを侮辱し得べ

き理由を見ないのである。何となれば個人の獨立名譽は神聖にして飽迄も之を尊重すべきものであるからである。世界は有害若くは無意味の國家存立に反對するの權利を有するも個人の獨立を害するの權利を有しないのである。これは劣等民族に對するも同じである。例へば黒人蕃人に對するもその名譽を侮辱しその身體を撲ちその財物を掠奪することが出来ぬのである。

近代思想は無意味の國家建設に反對するの傾向を有して居る。國際聯盟の如きが亦たその例である。獨り異例とすべきは故ウキルソンの提唱に係る民族自決の主義であるが、これは著しく世界小民族の思想を混亂せしめたに拘らず無意味の放言であつて、ウキルソン氏自身も爾かく哲理的に之を提唱したるに非ずして僅に歐洲一部の國際的小紛争を處理するの便法として政略的に一時之を提唱したるに過ぎざるものである。現に國際聯盟の思想とも正面より相反對交叉して居るのである。而して實際に於てもこの主義は國際間の紛争を整理するに寸効なく歐洲は今尙その係争を繼續して居るのである。蓋し民族自決と云ふも係争者自ら之を認めざるのみならず他の三國も亦た決して之を認めないのである。何となれば他の國に妄に自決されては堪らぬからである。恰度個人の隣家に放火犯の常習者あり又は傳染病患者あるが如きものである。ヴェルサイユ條約に在りても國際聯盟に在りても皆大國が專決し決して小國に自決を許さぬのである。小國は實際に於て殆ど何等の發言權も決議權も有せぬのである。それで單に民族自決と云ふ標語を與へられても恰度犬が投げられたる物に噛み付いた處そ

れが石塊であつたと同じやうな馬鹿を見るのである。

インターナショナルイズムとナショナルイズムとの關係に就ては識者も随分困難するのであるが、要するに文化の性質が一致すればインターナショナルイズムとなり、文化の性質が異ればナショナルイズムとなるのである。恰度船渠と開門との關係のやうなもので、潮が満ちて来ればインターナショナルイズムとなり潮が干ひて来ればナショナルイズムとなるのである。何ちらも一方に偏することが出来ないのである。ウキルソン氏がヴェルサイユ會議に於て頻に國際聯盟を高調し並にヴェルサイユ條約を締結して歸つても本國の上院は之に反對し國際聯盟もヴェルサイユ條約も之を認むるに至らずして茲にインターナショナルイズムとアメリカニズムとの矛盾を生じウキルソン氏は能く之を解決するに至らずして竟に發狂悶死するに至りたるが如きその一の慘例とすべきである。

朝鮮人は或は印度、埃及、愛蘭、比律賓等の例を引ひて朝鮮の獨立を説かんとするであらう。然し愛蘭の獨立は元來好ましからざる現象なると同時に宗教上の迫害及農民の權利の壓迫等の事情もあり又埃及の獨立は英國が文化的意味に於て之を統治するが爲に非ずして主として國際的外交軍事の爲に之を領有するに拘らず必要以上に埃及及埃及人に對し壓迫侵害を加ふるが爲なりとも云ふべく、更に印度に至りては根柢よりその人種文化を異にするに拘らず著しく之を侵害し且つその富を奪ひ人民をして殆どその惡政虐待に堪へざらしむるが爲なりと云ふべく、尙比律賓に關しては米國がその初より

獨立を許すことを聲明せるに依り之を督促するに過ぎざるものと見るべきである。要之朝鮮の事情とは何れも全くその趣を異にするものであつて、朝鮮は日本の統治に關して何等その侵害壓迫虐待を訴ふべき事實を有しないのである。

然らば最後に世界に國するものは如何なる民族なりやと云ふに、そは文化優越にして實力之に伴ふの民族たるべきである。假に文化優越なるも實力の之に伴はざるものは未だ世界を指導するに足らぬのである。白耳義、和蘭、其他の歐洲小國が文化の性質程度に於ては敢て他の大國に譲らざるも實力の之に伴はざる爲め以て歐洲を指導するに足らざると同じである。又實力餘あるも文化の優越ならざるものは決して之をして他を指導せしむべきものではない。歐洲大戦役が獨逸に對して起されたるが如く、又列國が露國のボルシエウキキに對するが如く、更に世界が驕慢野卑なる米國に對するが如く他國は寧ろ聯盟して之を打撃し制壓すべきものなりと信せらるゝ。斯くて最後に存留すべき最優越文化の最大實力を具ふる邦國は何國なるべきやと云ふに、早晚先づ亞細亞聯邦、歐羅巴聯邦、亞米利加聯邦、阿弗利加聯邦等現はるゝに至るべく、而して最終に世界國家の顯出を見るに至るべきものである。世界國家は所謂神の國であつて神を主權者に仰ぐ一君平等の絶對國家である。

二三、朝鮮人の祖國

朝鮮の獨立動動は朝鮮人の祖國に忠實ならんとするものであらうが、朝鮮の祖國は何處なりやと云ふに、それが偶々日本と同じでありとすれば頗る意外ならざるを得ない。これ日鮮同祖論の起る所以であるが、日鮮兩民族は主として其昔或は同じツングーシユ種族に屬し海を渡りて日本に入りたる者が日本人となり留りて朝鮮に居りたる者が朝鮮人となり爾來互に往來交通したるものに非ざるかと思はる。これ等は素人考の一時の想像論に過ぎないのであるが、何れ人類學人類學考古學等の進歩に依りその真相を明にせらるゝに至るであらう。歴史學上に於ても既に日本と朝鮮との交渉は遠く神代當時に遡り、現に富士古文書に依れば我が素盞鳴尊は實は新羅王の四男多加王と云ふ方であり初め我國に侵入し暴舉を演せられしが後歸順し我天照大神の爲に名を賜ひ姉弟の契を結ばせられ給ひたりとのことであり、又素盞鳴尊の御足跡は日本書紀に依るも朝鮮史に依るも朝鮮に及びたりとのことであるが、それが單に南鮮中鮮に止らず聖德太子の爲め隋に遊學を命せられたる僧南淵の著に係る南淵書なるものに依れば尊の御足跡は遠く鴨綠江以北に及びたりとのことであり、更に朝鮮の檀君と云ふのが素盞鳴尊の御子たる五十猛神でありとのことであり、且つ神武天皇の朝に新羅王子天日槍が歸化した我が神代新羅王の祖とならせられたりとのこともあり、尙垂仁天皇の朝に新羅王子天日槍が歸化した我が神功皇后はその六代の孫に當つて居るとのことであるなど頗る奇しき因縁である。右の内富士古文書及南淵書なるものは未だ在來學界に容認せらざる文書であつて或は僞書ではなからうかなど云ふ人もあ

るが而かも是れ何等詮索を経たる上の斷言ではないのである。責任ある學者は斯かる稀代の古文書又は珍書に對し充分の研究を加へざるべからざるものである。斯くて此外崇神天皇の朝から天智天皇の朝に至るまで高句麗、新羅、百濟、日本の擁立に係る任那とは交もく我國に朝貢しその間有名なる神功皇后の三韓征伐などもあつた次第である。先是北部朝鮮なる箕子朝の古朝鮮は漢の爲に亡ぼされたが、その跡に與つたのが高句麗である。日本の勢力が朝鮮に及んだ際はこの北部の高句麗も南部の新羅百濟と共に我國に朝貢したこと前述の通であるが、我國が天智天皇の時代内政に專にして一時朝鮮を放棄した以來高句麗は唐の附庸たる新羅に併合せらるゝこととなつた。それから高麗國が興つて朝鮮を統一し更に李氏朝が代つて最近の新朝鮮を興すことになつた。然るに茲に一考すべきことは、朝鮮が我國に朝貢せざる場合は概して支那大陸よりの政令を受けその附庸となつて屢次我國に抗し、高麗は元の附庸となつて、文化弘安の役には我九州に來冠し、更に李氏朝に在りては明、清、露等の附庸となり若くはその勢力下に立ちて逐次我國に抗敵した。我國は之に對しそれゝ豊太閤の朝鮮征伐、日清、日露の大戦役を以て之に應へ竟に之を併合したのであるが、朝鮮と云ふ國は古來自ら傲として獨立を維持したることなく、常に日本か支那大陸か何れか一方の勢力下に立つことになつて居るのである。これ朝鮮の國土が貧弱であつて到底傲として一國を支持するに足らぬからである。乃で日本の勢力が延長すれば日本の政令下に入り支那大陸の勢力が延長すれば支那大陸の政令下に入るの

ある。一張一弛日本の勢力と支那大陸の勢力とが出入し交もく之を支配したのである。その間日本が海を距て居ることが一の不利なる點であつて偶々海軍の勢力が充實して居ないと失敗を招くのである。豊太閤文録の役に敵海將李舜臣の爲に大敗を蒙りたるはその一例である。而かも一たび我國に海軍の勢力が充實すれば朝鮮を制するは自然の勢であつて現に今日ある所以である。要之朝鮮は日本と大陸との間に在りて古來その通路橋梁とも見らるべき地位に在るもので、窮極何れにか附屬併合せらるべき運命を有つて居るものである。南に迎日灣あつて北に迎王門あるが如きものである。日本に附屬せざれば必ず支那若くは露西亞に附屬すべき性質を持つて居るのである。而してこれを挾むの大國間に在りても古來亦た之を獨立の一國なりとして認むるの慣例を存しないのである。即ち元冠は高麗を隨へ豊公の征伐は大明に對し日清日露の役自ら亦たその對敵を定めて居るのである。この場合に朝鮮が日本に併合せらるべきことは何等不名譽の事實とはならないのであつて、却て舊の祖先の家に還り兄弟の家に入るものである。若しこれが支那の爲に併合せられ若くは露西亞の爲に征服せられたなら眞實の不名譽及不幸となるのである。何となれば是れ他民族の爲に支配せらるゝからである。予は日鮮同祖論の一日も早く學問上闡明せられんことを切望する者である。

日本には既に幾多の民族種族が抱合せられ渾然たる一の理想國を成し何れも神の前に手を拍つて泰平を謳ふて居る。天孫人種も居れば先住民族も居り蝦夷も居れば熊襲も居り土蜘蛛も居れば出雲族も

居り天日槍族も居る。出雲族と天日槍族はお親懇の筈である。何れも席を分ちて新朝鮮民族の坐するを待つて居る。

二四、不逞鮮人の取締

所謂不逞鮮人なるものも近來は愛國義烈なるものは少く獨立自治を標榜して金錢を同胞の間に貪り糊口渡世の資となす者多きを加へて居ると云ふ。北鮮國境地方に出沒する不逞鮮人團は所謂朝鮮馬賊と稱するものにて純然たる一種の強盜に過ぎないことである。これ朝鮮志士の面目に非ざると同時に、所謂不逞鮮人の運動なるものはその志の如何に拘らず眞に兇惡無意味のものであつて徒に同胞民族に無限の煩累を掛くるに過ぎざるものであるから止したら宜からうと思ふ。本人としても恐く犬死に終るべく、又同胞民族としても迷惑であるから自ら之を取締つたら宜からう。日本政府としては唯だ當に此等の輩を剿滅し警察力が足らなければ警察力を増し軍隊力が必要ならば軍隊力を備ふるまでもある。朝鮮に若干師團を増設するは最も適切なることである。斯くて飽迄も治安の責を徹底するまでもある。

二五、鎮海經營と咸鏡鐵道

日本の國策上朝鮮に施設すべき事業の中最も急切なるものは鎮海の經營と咸鏡鐵道の貫通とである。鎮海は日本の大陸に對する大策源地であつて、一朝戰時に際し日本と大陸とを聯絡する場合に釜山では海上より直接砲撃せらるゝ虞があるけれども鎮海では毫も其憂がない。乃で鎮海を大陸に對する大策源地として經營するは今日の急務であるが、就中その最も急なるものは鐵道の開通である。從來鎮海と大邱との間には鐵道貫通の豫定計畫があるが未だその實行の機に達せず不取敢鎮海と馬山線の昌原驛とを聯絡することとなり前年來その工事施行中であつたが、全線十三哩中既に八哩の土功を完了し僅に五哩を残すに拘らず大震災後經費の都合にて之を中止することとなつたのは頗る遺憾である。但し齋藤總督の識見に依りトンネルだけは貫通せしめられ置かれたのはセメテもの幸福である。鎮海は流石に前年上泉將軍が大規模の計劃を立てられて居つた程あつて實に大規模の策源地たるべき稀有の地である。何れ將軍先見の明の現はるゝ時機があるであらう。

鎮海の經營と同時に北鮮咸鏡鐵道の貫通は更に亦た急務中の急務である。

二六、朝鮮貨幣を廢止せよ

朝鮮には日本と朝鮮との二種の貨幣が行はれ、又對島海峽を距てゝ朝鮮の貨幣が遽に内地に行はれず釜山埠頭にて取換へねばならないのは不自然の極であると同時に、統治上の矛盾である。これは韓國

銀行以來の制度を踏襲し來つたまでに過ぎないもので、朝鮮銀行紙幣なども一部の金貨準備の外主として日本銀行紙幣を以て充當することになつて居るから、最早時勢に顧み朝鮮貨幣制度を廢止し一切日本の貨幣を通用せしめたら宜からうと思ふ。

二七、文化研究會を起せ

朝鮮の文化を發揚する爲め文化研究會を起し人類學、人種學、考古學、歴史學、文學、藝術、一般科學等の研究調査を遂げ之を世界に發表することが最も適切である。差詰慶州古墳の發掘より得たる王冠其他の説明及朝鮮植物誌の研究報告などは世界の注意を喚起しその學界を益するの大なるものであらう。

306
559

大正十三年十月二十九日印刷
大正十三年十一月三日發行

定價四十錢

著者 川島清治郎
東京市牛込區東五軒町一番地
發行者 川島清治郎
東京市牛込區赤城元町二番地
印刷者 松田春治郎
東京市牛込區赤城元町二番地
印刷所 集名堂印刷所

東京市牛込區東五軒町一番地

發行所

大日本社

終